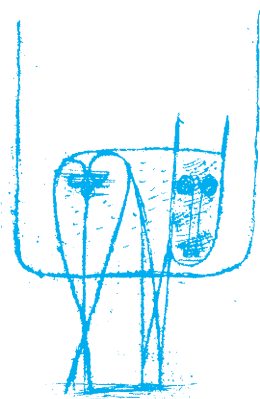

神奈川県立近代美術館

年2007報

ANNUAL REPORT



目次

あいさつ	5
展覧会活動	
葉山館	6
鎌倉館	12
鎌倉別館	17
会期・観覧者数一覧	21
教育普及活動	
受講・参加プログラム(講演会・ギャラリートーク・ワークショップ等)	22
研修等受入れプログラム(研修・実習・出張授業等)	24
美術館活用推進委員会	24
美術図書室	24
美術館紹介・広報(展覧会紹介を除く)	25
刊行物(展覧会図録を除く)	26
2007年度 教育普及活動を振り返って[稲庭彩和子]	28
作品蒐集管理活動	
購入寄贈状況	30
寄託状況	30
新収蔵作品一覧(購入・寄贈)	30
館外貸出作品一覧	46
修復報告・修復作品一覧	49
調査研究活動	
研究報告	54
吉村弘と「sometimes press」[水沢勉]	54
美浦康重版画コレクションについて[長門佐季]	58
所蔵作品総目録の編集後記にかえて[榎山昌夫]	58
調査研究・執筆等の発表	60
講師・外部委員等派遣(学校連携プログラム以外)	60
運営・管理報告	
概況(沿革・所掌事務・施設の状況)	62
収入・支出の状況	62
PFI事業の概要	63
組織・職員一覧	63

あいさつ

年報2007年度版を刊行するに当たって、一言申し添えておきたいと思います。

この年報はそれぞれの年度ごとに、美術館がどんな活動を行ってきたかについて要点を取り出しながら報告するものです。近年、美術館の活動は、国内に限らず全世界的に、美術館の存在を支える社会に対して広く門戸を開くことを前代にも増して要請されるようになっていきます。さまざまな動機から美術館を訪れる多様な人々の、美術に関する多様な求めに応える美術館のあり方が、国を問わず、地域を問わず探られています。

私どもの美術館も、神奈川県という地域の特性を念頭に置きながら、同時に視野を広くもちつつ、誰もが気軽に訪れることができ、しかもさまざまな楽しみ方ができるあり方をつねに模索しながら、少しずつ活動の幅を広げてまいりました。財政状況の悪いなか、どここの美術館も活動を充実させていくのに苦心しておりますが、これからもその厳しさはしばらく緩むことはないでしょう。

創意と工夫も困難への方策のひとつと考え、展覧会もいたずらに観客数を指すことなく、広範な視点で社会や時代に必要な内容をもつものを志向し、普及活動の領域でも、子どもたち、青年層、成人の方々と、広く目配りをしていろいろな方向から美術に、そして美術館に親しみ、参加することで何かを得ることができるよう心がけています。また、コレクション作り、資料収集についても、美術作品、資料を多くの方々に役立つものとし、将来の人々に残していくことを使命と考え、美術作家、収集家を始めとするさまざまな方のご支援のもとに充実努めています。さらには、そうした活動を支えその水準を高め、つねに良質のものを提供するために美術館職員の調査研究を始めとする諸能力の研鑽についても心がけております。

この年報を通して、活動の実際に関連するもろもろの情報を記録し、美術館の一年を知っていただきたいと思います。そして、できるだけ多くの方々にお知らせするために、美術館のホーム・ページでも、この年報の内容をご覧いただけるようにしました。幾多の視点からのご意見、批評、激励は、美術館活動を一層有益なものとするに欠かせないと考えております。

2009年3月

神奈川県立近代美術館館長 山梨俊夫

展覧会活動

611

パリのエスプリ 佐伯祐三と佐野繁次郎展

L'Esprit de Paris: SAEKI Yuzo et SANO Shigejiro

ともに大阪で青春時代を過ごしパリで制作の充実を見せた佐伯祐三(1898-1928)の油彩画約40点と佐野繁次郎(1900-1987)の油彩画約50点を中心に、それぞれが描いたパリを見つつ、画中の文字の意味を問いかけた。

主催：神奈川県立近代美術館

特別協力：大阪市立近代美術館建設準備室

会期：2007年4月7日(土)～5月20日(日)

開催日数：38日

出品総点数：267点(展示替有)

総観覧者数：12,150人

担当学芸員：橋秀文

関連企画

- 1)座談会 5月13日「佐野繁次郎と佐伯祐三をめぐって」鹿海信也
- 2)ギャラリートーク 4月18日、5月16日 担当：橋秀文

関連記事

▼展評：

原田治「INVITATION マチエールの画家」『芸術新潮』新潮社、2007年5月、p.131

秋山亮太「美の履歴書004 門の広告 佐伯祐三 なぜ文字が際だつのか」『朝日新聞』夕刊、2007年4月25日、5面

▼展覧会紹介：13紙/誌(15回)

▼情報掲載：9紙/誌(10回)

カタログ

29.7×22.4cm、180ページ、販売価格2,500円

多色51図(佐伯)+239図(佐野)、単色9図(佐伯)+16図(佐野)、挿図7図

編集・発行：神奈川県立近代美術館

制作：印象社

謝辞／あいさつ(山梨俊夫)

目次

絵の中の文字—佐伯祐三と佐野繁次郎の場合(山梨俊夫)

佐伯祐三を憶ふ

(『三田文学』第3巻第11号：1928年11月号より)(佐野繁次郎)

佐伯祐三 図版／コラム(橋秀文)、解説(吉良智子)

佐野繁次郎 図版／コラム(橋秀文)、解説(奥野美香)

レストランの絵(『美之國』昭和四年二月号より)(佐野繁次郎)

佐伯祐三に導かれた佐野繁次郎の芸術(橋秀文)

佐伯祐三 略年譜

佐野繁次郎 略年譜(橋秀文編)

佐伯祐三 主要参考文献(橋秀文編)

佐野繁次郎 主要参考文献(橋秀文編)

作品リスト



ポスター



カタログ表紙

担当学芸員コメント

予算が限られた中で、どれだけ実のある展覧会ができるか、という模索の中で出来上がった展覧会だ。佐野の作品は、以前、多数寄贈を受けており、幼馴染であった佐伯祐三との2人展は一度はやるべき企画であった。佐伯祐三の作品は、大阪市立近代美術館建設準備室などの協力を得て、実りある展覧会ができた。実際の展示で、二人が文字をいかに絵画的に扱い、芸術に溶け込ませていたかを、はっきりと示すことができてよかった。(橋秀文)

612

伊東豊雄 建築 | 新しいリアル

Toyo Ito: The New "Real" in Architecture

建築家伊東豊雄(1941-)の個展。《せんだいメディアテーク》から最新のプロジェクトまでを、原寸大の模型や図面、CGなどの展示物で紹介するほか、展示空間に作られた曲面床によって、伊東の目指す「新しいリアル」を体感してもらう。

主催：神奈川県立近代美術館、朝日新聞社、NHKプロモーション、伊東豊雄展実行委員会

後援：建築業協会、日本建築家協会、日本建築学会、日本建築士会連合会

特別協賛：竹中工務店、大林組、鹿島、大成建設、戸田建設、オートデクス、東京ガス

協賛：SUS、熊谷組、清水建設、新菱冷熱工業、大気社、カバヤシステム マシナリー、セントラル硝子、大光電機、田島ルーフィング、旭硝子ビル建材エンジニアリング、カッシーナ・イクスシー、神鋼ノース、第一工業、太陽工業、タキロン、松下環境空調エンジニアリング、ヤマギワ、山際照明造形美術振興会、五洋建設、日本板硝子、日本軽金属、三和シャッター工業、高砂熱学工業、長谷虎紡績、コイズミ照明、コブキ、三精輸送機、日本板硝子環境アメニティ、日本板硝子ディー・アンド・ジー・システム、村松電機製作所、丸茂電機、三菱電機、三菱マテリアル建材、森平舞台機構、ヤマハサウンドテック、ユニオン、YKK AP

協力：キャノン、日本航空、日本通運、HORM

展示デザイン：伊東豊雄建築設計事務所

会期：2007年6月9日(土)～9月2日(日)

開催日数：74日

出品総点数：曲面床、モックアップ、模型・解説、映像等(点数不詳)

総観覧者数：18,587人

担当学芸員：太田泰人、長門佐季

関連企画

- 1) 6月16日 伊東豊雄氏自身による作品解説
- 2) 7月28日 ワークショップ「ことも建築ワークショップ—伊東豊雄さんと「やわらかな家」を作ろう!」 伊東豊雄
- 3) ギャラリートーク 6月23日、7月7日、21日、8月4日、11日、18日、25日 担当：伊東豊雄建築設計事務所所員



ポスター



カタログ表紙



鑑賞リーフレット表紙(詳細はp.26参照)

関連記事

▼展評：

「今月のギャラリーレポート」『建築知識』2007年9月号、エクスナレッジ、2007年9月、p.162

「うねる床 裸足で歩けます 9日から伊東豊雄展 県立近代美術館 葉山」『朝日新聞』朝刊、2007年6月7日、28面

山元一郎「発想の原点は人間の体と自然 葉山で伊東豊雄展 新しい建築思想を紹介」『朝日新聞』朝刊、2007年6月10日、37面

「風、水、光・・・流れているものを建築に」『朝日新聞』朝刊、2007年6月17日、35面
児島やよい「建築を体験する 美術館での子どもワークショップから 表現者も共に学ぶ」『東京新聞』朝刊、2007年9月8日、18面

▼展覧会紹介：21紙/誌(28回)

▼情報掲載：7紙/誌(12回)

カタログ

30.7×19cm、188ページ、販売価格3,000円

多色76図、単色60図+28図(建築図面)

編集：建築・都市ワークショップ(鈴木明+今藤啓)

執筆：多木浩二、長谷川堯、セシル・バルモンド、伊東豊雄

翻訳：アルフレッド・バーンバウム、ジェイ・エル・エス、金田光弘

発行：伊東豊雄展実行委員会

あいさつ(山梨俊夫)

目次

生命とテクノロジー(多木浩二)／Life and Technology(Koji Taki)

伊東豊雄を学ぶ(セシル・バルモンド)／Learning Ito(Cecil Balmond)

新しいリアル—現代建築に物質(もの)の力を回復するために(伊東豊雄)／The New "Real": Toward Reclaiming Materiality in Contemporary Architecture (Toyo Ito)

テクノロジー：1971～2006

スタッフが語る伊東豊雄

解説・伊東豊雄のデザインの軌跡 キューブ崩し、あるいはチュービズム建築をめざして(長谷川堯)／Trajectory of Toyo Ito's Design Deconstructing the Cube, or toward Architectural Tubism(Takashi Hasegawa)

伊東豊雄略歴

担当学芸員コメント

現代日本の文化の中で建築はとくに世界的な評価の高い分野である。本展は日本のトッププランナー建築家の仕事を紹介しようとする企画。歴史的な回顧展でなく現在進行中の自分たちの思考を共有してもらいたいとする伊東氏の強い意思に導かれて、きわめて大胆なデザインの展示となった。巡回することに展示が修正されたが、葉山では建築的思考のプロセスとその根源を幅広い層に理解してもらうため、手に触れることのできる造形モデル、イラスト入りのリーフレットなどを準備、中庭でのワークショップも行った。

(太田泰人)

613

イリヤ・カバコフ 『世界図鑑』 絵本と原画

Ilya & Emilia Kabakov presents: Ilya Kabakov ORBIS PICTUS Children's Book Illustrator as a Social Character

現在ニューヨークを拠点として現代美術の国際的な場で活躍しているイリヤ・カバコフ(1933-)は、旧ソ連時代に「非公式」芸術家として活動する一方、1950年代末から社会主義体制の中で絵本画家として生活していました。彼の空想力豊かな絵本の世界を紹介します。

主催：神奈川県立近代美術館、東京新聞

協力：全日本空輸株式会社

会期：2007年9月15日(土)～11月11日(日)

開催日数：49日

出品総点数：1,053点(展示替有)

総観覧者数：11,762人

担当学芸員：榎山昌夫、水沢勉

関連企画

1) 特別対談 9月15日 イリヤ・カバコフ、ボリス・グロイス

2) 記念講演会 10月13日 鴻野わか菜

3) ギャラリートーク 9月29日、10月27日 担当：榎山昌夫

関連記事

▼展評等：

福住廉「Art Walk:「彼の手」につくられる現代アートの矛盾」『エスカイア日本版』

2007年12月号、エスカイア マガジン ジャパン、2007年12月、p.301

沼野充義「Exhibition Reviews」『美術手帖』2008年1月号、美術出版社、2008年

1月、pp.184-185

榎山昌夫「イリヤ・カバコフ「世界図鑑」展を実現して」『AVANTGARDE』Vol.4、

T.G.O.UNIVARTO、2008年1月、pp.74-76

「葉山で絵本の展覧会 国際的画家カバコフ 原画1000点など紹介」『東京新聞』

朝刊、2007年9月12日、23面

「カバコフ展開幕」『東京新聞』朝刊、2007年9月16日、28面

「イリヤ・カバコフ「世界図鑑」絵本と原画」『毎日新聞』朝刊、2007年9月19日、21面

松本良一「ユートピアの不条理を超えた挿絵 旧ソ連ウクライナ出身・カバコフ氏」『読

売新聞』朝刊、2007年9月20日、19面

「イリヤ・カバコフ「世界図鑑」絵本と原画展 常に脈打つ「観察者」の視点」『東京

新聞』朝刊、2007年10月1日、23面

尹貴淑「イリヤ・カバコフ展 旧ソ時代の挿絵一挙に 世界で初の本格公開」『神奈

川新聞』朝刊、2007年10月7日、7面

三田晴夫「イリヤ・カバコフ「世界図鑑」絵本と原画展 漂うエキゾチックな香気」

『毎日新聞』朝刊、2008年3月4日、4面

▼展覧会紹介：40紙/誌(45回)

▼情報掲載：11紙/誌(31回)



ポスター

担当学芸員コメント

イリヤ・カバコフが旧ソ連時代に手掛けた本の装丁・挿絵原画約1,000点を中心に構成した展覧会であるが、この展覧会そのものが、自分の過去と旧ソ連社会を重ねて振り返る現代作家カバコフ夫妻のひとつのプレゼンテーションとなっている。図録は作家とレイアウトの調整を繰り返し、その意図を尊重しつつ、資料的価値も高いものになったと自負している。喜ばしいことに、イリヤ・カバコフは2008年の高松宮殿下記念世界文化賞(彫刻部門)を受賞した。(榎山昌夫)

カタログ

26.6×20cm、456ページ、販売価格2,500円

多色1100図、単色61図、挿図13図

編集：神奈川県立近代美術館、広島市現代美術館、世田谷美術館、足利市立美術館、東京新聞、鴻野わか菜

執筆：イリヤ・カバコフ、ボリス・グロイス、水沢勉、鴻野わか菜、榎山昌夫

翻訳：水沢勉、鴻野わか菜、榎山昌夫、遠藤望、東谷千恵子、江尻潔、角条緒子、

河野晴子、スタンレイ・N・アンダーソン、シンシア・L・マーティン

デザイン：イリヤ・カバコフ、馬面俊之

制作：リーヴル

発行：東京新聞

ごあいさつ(主催者)／Foreword(The Organizers)

「挿絵画家という社会的役回り」とは何か？(イリヤ・カバコフ)／What is the Meaning of the Subtitle: "Children's Book Illustrator as a Social Character"? (Ilya Kabakov)

謝辞／Acknowledgements

目次／Contents

「子どものとき」を計画する(ボリス・グロイス)／Designing the Childhood (Boris Groys)

ユートピア／反ユートピアの境界—イリヤ&エミリア・カバコフ「世界図鑑 ORBIS

PICTUS」をめぐって(水沢勉)／On the Border Between Utopia and Anti-

Utopia: Ilya and Emilia Kabakov's "Orbis Pictus" (Tsutomu Mizusawa)

図版：イリヤ・カバコフ 絵本と原画(1956-1989)(解説：榎山昌夫・鴻野わか

菜)／Plates: ILYA KABAKOV Illustrations for Children's Books (1956-

1989) (Commentaries: Masao Momiyama/Wakana Kono)

『オーシャと友達』—イリヤ・カバコフとユダヤ(鴻野わか菜)／Osha and His

Friends: Ilya Kabakov and the "Jewishness" (Wakana Kono)

原画コレクション／Collection of Originals

《ぬり絵アルバム》と《外は春》／"The Coloring Album" and "Spring Is

Arriving Outside"

定期刊行物の挿絵／Illustrations for Periodicals

挿絵についてのノート(イリヤ・カバコフ)／Notes about Book Illustration (Ilya

Kabakov)

挿絵画家としてのカバコフ年譜(鴻野わか菜編)

挿絵画家カバコフを知るための文献案内(鴻野わか菜)

掲載リスト／List of Plates



カタログ表紙

614

プライマリー・フィールド 美術の現在—七つの〈場〉との対話

Primary Field

新鮮な感覚を煌かせ現在活躍中の美術家たち、吉川陽一郎、多和圭三、大森博之、石川順恵、青木野枝、坂口寛敏、さかぎしよしお、による平面・立体作品を展示。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2007年11月23日(金・祝)～2008年1月14日(月・祝)

開催日数：41日

出品総点数：61点

総観覧者数：5,272人

担当学芸員：是枝開

カタログ

30.3×22.8cm、104ページ 販売価格2,000円

多色77図、挿図13図

編集：神奈川県立近代美術館

デザイン：桑畑吉伸

制作：コギト

発行：神奈川県立近代美術館

謝辞

あいさつ

モダニズムとしての現在—序章として(山梨俊夫)

インタビュー(吉川陽一郎、多和圭三、大森博之、石川順恵、青木野枝、坂口寛敏、さかぎしよしお、聞き手：是枝開)

原初的な場との会話—インタビューを終えて・追記(是枝開)

図版

作家略歴・参考文献

出品作品リスト

関連企画

1) ギャラリーツアー 12月23日 林道郎・出品作家7名

2) ギャラリートーク 12月8日、15日 担当：是枝開

関連記事

▼展評：

内田真由美「『プライマリー・フィールド』 共振する7つの〈場〉」『東京新聞』朝刊、2007年12月1日、20面

大西若人「『プライマリー・フィールド』展 『生成の場』に立ち会う静かな興奮」『朝日新聞』夕刊、2007年12月19日、9面

三田晴夫「『スペース・フォー・ユア・フューチャー』展 『プライマリー・フィールド』展 興味をそそる好対照の視座」『毎日新聞』朝刊、2007年12月25日、4面

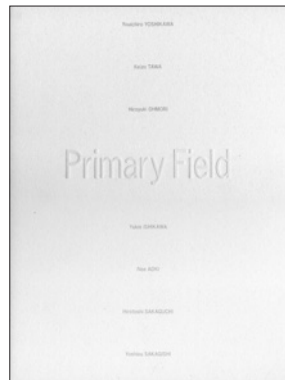
前田恭二「現代美術に多様な答え プライマリー・フィールド展」『読売新聞』朝刊、2007年12月27日、17面

▼展覧会紹介：19紙/誌(27回)

▼情報掲載：9紙/誌(23回)



ポスター



カタログ表紙

担当学芸員コメント

展示は、7名の作家の7つの部屋の連鎖が、緊張感のある空間のリズムを持つように心がけた。シンプルな構造をもつ作品の連続ではあるが、そこに複合的で豊かな意味性が受け取れるような、来館者ひとりひとりが内省的な気持ちになれる、ゆったりとした展示構成を目指した。図録では、7名の作家の自作についての考え、制作上のコンセプトをお尋ねするべく、その過程や背景、あるいは個々の作品の具体的構造について、インタビューを事前に行い掲載した。(是枝開)

615

誌上のユートピア 近代日本の絵画と美術雑誌—1889-1915

Utopia of Images and Letters Japanese Modern Art and Art Magazine, 1889-1915

19世紀末に本格化した美術雑誌は、文化の架け橋として、日本近代の名作の誕生に大きく貢献した。藤島武二などの油彩画・日本画、雑誌・印刷物約180点を展示。

主催：神奈川県立近代美術館、読売新聞東京本社、美術館連絡協議会

協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、三菱商事

会期：2008年1月26日(土)～3月9日(日)

開催日数：38日

出品総点数：430点(展示替有)

総観覧者数：5,788人

担当学芸員：水沢勉、橋秀文

関連企画

1) 県立機関活用講座

第1回 2月9日「画文交響—パンの会・『白樺』・ヒュウザン会・草土社をめぐって—」

紅野敏郎

第2回 2月23日(午前)「『明星』と白馬会の画家たち」森山秀子

第3回 2月23日(午後)「鐫木清方、竹久夢二、橋口五葉—口絵から絵はがきへ—」山田俊幸

第4回 3月8日(午前)「竹久夢二、恩地孝四郎、田中恭吉—詩と版画の融合をもとめて—」桑原規子

第5回 3月8日(午後)「近世の画家と書物」玉蟲敏子

2) ギャラリートーク 2月9日、16日 担当：橋秀文 3月1日 担当：水沢勉

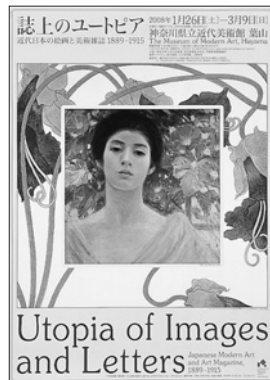
関連記事

▼展評：

辺見海「Exhibition Reviews」『版画芸術』2008年春号 No.139、阿部出版、2008年3月、p.124

水沢勉「誌上のユートピア 近代日本の絵画と美術雑誌1889-1915 印刷技術の発展 才能刺激」『読売新聞』夕刊、2008年1月21日、14面

「ルノワール+ルノワール展／誌上のユートピア展／美の女神の系譜展／近藤日出造展」『読売新聞』朝刊、2008年1月28日、32面



ポスター

担当学芸員コメント

いままでは展覧会として取りあげることの少なかった明治浪漫派以降、19世紀から20世紀にかけての世紀転換期の日本の美術雑誌と絵画の関係に光を当てることを試みた。ジャポニズムの日本への逆影響を美術雑誌という媒体によって闡明できるのではないかとという発想が背景にあった。壁づけケースによって雑誌の表紙デザインを絵画と比較できるような展示の工夫を施した。当時の印刷技術とデザインの多様性の一端を紹介できたと思う。(水沢勉)

水沢勉「誌上のユートピア 上 簡略と装飾 際立つ対比」『読売新聞』朝刊、2008年2月1日、30面

橋秀文「誌上のユートピア 中 織田一磨「海を渡る蝶」 一編の詩に比する挿絵」『読売新聞』朝刊、2008年2月3日、30面

長門佐季「誌上のユートピア 下 杉浦非水「三越呉服店 春の新柄陳列会ポスター」 日本らしき残す新作風」『読売新聞』朝刊、2008年2月5日、30面

宝玉正彦「近代絵画の動き一目で「誌上のユートピア」展」『日本経済新聞』朝刊、2008年2月20日、40面

▼展覧会紹介：21紙/誌(24回)

▼情報掲載：12紙/誌(30回)

カタログ

22×17.5cm、360ページ、販売価格2,400円

多色691図、挿図15図

編集：神奈川県立近代美術館

デザイン：桑畑吉伸

制作：コギト

発行：美術館連絡協議会

謝辞

ごあいさつ(主催者)

目次

眼の驚きと熱狂—美術雑誌の語ること(山梨俊夫)

隠された誌上のユートピア(水沢勉)

図版

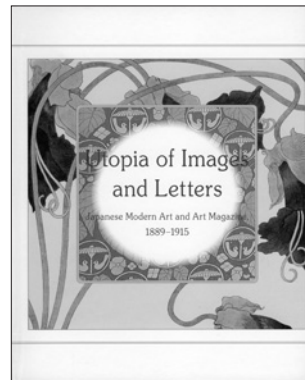
アート・ディレクター北原白秋(橋秀文)

転換期の美術の混淆と伝播(鯨井秀伸)

主要作家解説

関連年表

主要参考文献



カタログ表紙

616

コレクション全館展示—10,000点からの精華400点 葉山館開館5周年記念 百花繚乱の絵画

The Abundance of the Collection

日本近代を中心に集められた1万点に近い収蔵品から、選りすぐりの絵、普段紹介の難しい絵を合わせ、当館のコレクションの豊かさを、質とともに量としても紹介。葉山館、鎌倉館、鎌倉別館で同時に開催した。各館それぞれのテーマに沿って、総計400点ほどの作品で構成。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2008年3月29日(土)～3月30日(日)

＊次年度に継続 5月18日(日)閉会

開催日数：2日

出品総点数：442点(第1部：葉山館279点、第2部：鎌倉館111点、
第3部：鎌倉別館52点)

総観覧者数：992人(当年度分のみ)

担当学芸員：山梨俊夫、奥野美香

パンフレット

25.7×18.2cm、16ページ、無料配布

編集・発行：神奈川県立近代美術館

開催にあたって

第一部：葉山館 解説／出品リスト

第二部：鎌倉館 解説／出品リスト

第三部：鎌倉別館 解説／出品リスト

関連企画

当該年度にはなし。次年度での会期中に実施。

関連記事

▼展覧会紹介：10紙/誌(10回)

▼情報掲載：6紙/誌(6回)



ポスター



パンフレット表紙

担当学芸員コメント

葉山館、鎌倉館、鎌倉別館の総面積約2,400㎡の展示スペース全部を使って、収蔵品をできるだけ多く展示した。そのことで、コレクションの代表作を網羅するとともに、普段目に触れる機会がない作品を多く公開し、コレクションの充実ぶりを改めて来館者に知らせることができたのは、意義深いと考えている。もちろん10,000点を数えるうちの442点であるから、収蔵品全容というわけにはいかないが、コレクションの多様さを知らせるさまざまな機会にまたひとつ厚みを加えることのできた展覧会である。と同時に、積極的に当館の三つの建物が連動できたことも意味深い。(山梨俊夫)

617

春の所蔵品展示 近代絵画の名品展—高橋由一から昭和前期まで

Masterpieces of Japanese Modern Painting from the Collection

当館のコレクションから、明治、大正、昭和前期の時代の特徴をよく表わす絵画の名品を、油彩画や日本画に版画、水彩画、彫刻を含めて61作家による85点の作品で紹介。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2007年4月7日(土)～6月17日(日)

開催日数：62日

出品総点数：85点

総観覧者数：8,502人

担当学芸員：三本松倫代

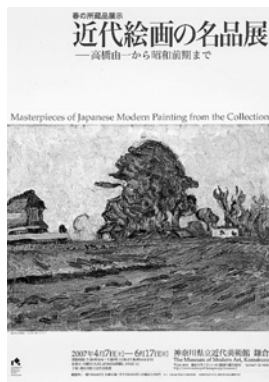
関連企画

1)ギャラリートーク 4月28日 担当：三本松倫代

関連記事

▼展覧会紹介：8紙/誌(14回)

▼情報掲載：7紙/誌(10回)



ポスター

担当学芸員コメント

さまざまな作家の作品が並ぶ所蔵品展示という性格をふまえ、鑑賞のきっかけとなるような作家・作品解説を、400字程度の短いテキストで会場内の作品キャプション下に添えた。全作品に付けられるとかえって見方をしばることになりかねないので一部の作品に留め、鑑賞者が自発的に参照できるように心がけたが、幸いアンケート等で簡潔で的確との評価を頂き嬉しく思う。但し幅広い年齢層への対応ということでは表現やルビ等の工夫が更に必要であろう。(三本松倫代)

618

生誕100年 鶴岡政男展 人間を愛し、人間を笑う

TSURUOKA Masao: A Centenary Retrospective

風刺と笑いをこめた視点で人間を見つめた鶴岡政男(1907-1979)。楽しいが、時に不気味な人間像を描き続けた油彩画家の生誕100年を記念する回顧展。

主催：神奈川県立近代美術館、東京新聞

会期：2007年6月30日(土)～9月2日(日)

開催日数：56日

出品総点数：157点(展示替有)

総観覧者数：7,629人

担当学芸員：山梨俊夫

関連企画

- 1) 記念講演会 7月14日「鶴岡政男の芸術と人間」徳江庸行
- 2) ワークショップ 8月18日「夏休み子ども鑑賞プログラム『発見! 絵のなかに生きるもの』」担当：平井鉄寛
- 3) ギャラリートーク 7月7日、8月4日 担当：山梨俊夫

関連記事

▼展評：

徳江庸行「生誕100年鶴岡政男展」『新美術新聞』No.1119、2007年5月1日11日合併号、美術年鑑社、2007年5月、p.1

佐々木豊「画壇、破傘：回想の鶴岡政男―「重い手」の後の軽絵画」『美じょん新報』第94・95合併号、ビジョン企画出版社、2007年8月、p.3

「生誕100年競光展・鶴岡政男展から」『自由美術』2007自由美術協会、2007年10月、pp.29-35

飯野正仁「鶴岡政男 戦時下を生きた(1) 戦時下日本の美術家たち第17回」『あいだ』No.141、『あいだ』の会、2007年10月、pp.26-36

「戦後洋画の異才・鶴岡政男 二畳間から生まれた作品群」『東京新聞』朝刊、2007年6月4日、21面

「人間を直視した鶴岡政男の回顧展」『日本経済新聞』朝刊、2007年6月5日、40面

前田恭二「鶴岡政男展 さまよう叙情 色彩の妙」『読売新聞』朝刊、2007年6月7日、19面



ポスター

山梨俊夫「人間を愛し、人間を笑う 鶴岡政男展から① 重い手」『東京新聞』朝刊、2007年8月1日、24面

山梨俊夫「人間を愛し、人間を笑う 鶴岡政男展から② 夜の祭典」『東京新聞』朝刊、2007年8月2日、22面

山梨俊夫「人間を愛し、人間を笑う 鶴岡政男展から③ 視点B」『東京新聞』朝刊、2007年8月3日、20面

三田晴夫「現代アート考 鶴岡政男展と中村宏展 戦後絵画に異彩放つ二筋の軌跡」『毎日新聞』夕刊、2007年8月22日、7面

▼展覧会紹介：19紙/誌(28回)

▼情報掲載：8紙/誌(13回)

カタログ

29.7×11.5cm、184ページ、販売価格2,000円

多色168図、単色25図、挿図10図

編集：徳江庸行、松下由里、伊藤佳之(群馬県立館林美術館)、山梨俊夫(神奈川県立近代美術館)

デザイン：馬面俊之

制作：リーヴル

発行：東京新聞

ごあいさつ(主催者)

鶴岡政男という画家―一生の現実と絵画の重奏(山梨俊夫)

鶴岡政男の足跡(徳江庸行)

図版

作品解説

年譜

参考文献目録

作品リスト



カタログ表紙

担当学芸員コメント

鶴岡の回顧展は、画家の死の直前に群馬県立近代美術館で開かれて以来である。当館と群馬県立館林美術館との共同企画で開催された同展は、戦後の社会に鋭い眼を注ぎ、愚かしさや可笑しみをさらす人間の生き様を暴き立て戦後美術に大きな波紋を投げかけた鶴岡政男の全貌を紹介するものであった。生きることは矛盾を抱えることという人間の不変の条件は、いまもわれわれの問題となっているが、戦後の社会状況の中でそれがどう観察され、美術がそれをどう捉えることができたのか、という視点から、彼の絵画は、ユーモアを伝えながらわれわれの生を考えさせる格好のきっかけを提示した。そしてその点で来館者の関心を強く引き、好評を得た。(山梨俊夫)

619

建築と暮らしの手作りモダン アントニン&ノエミ・レーモンド展

Crafting a Modern World: The Architecture and Design of Antonin and Noémi Raymond

1920年に日本にやってきた建築家アントニン・レーモンド(1888-1976)とその妻ノエミ(1889-1980)はモダン・デザイン、近代建築の先駆者となる一方、日本の暮らしの美を世界に伝えた。日米共同で組織した、夫妻の初回顧展である。

主催：神奈川県立近代美術館、ペンシルヴァニア大学付属建築博物館、カリフォルニア大学サンタバーバラ校付属美術館、読売新聞東京本社、美術館連絡協議会

協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷

協力：レーモンド設計事務所、docomomo_japan、日本航空、富士ゼロックス

会期：2007年9月15日(土)～10月21日(日)

開催日数：32日

出品総点数：244点

総観覧者数：11,744人

担当学芸員：太田泰人、三本松倫代

関連企画

1) 記念シンポジウム 9月16日 「レーモンドを再発見する」北沢興一、松隈洋、兼松敏一郎、ウィリアム・ウィテカー、カート・ヘルフリック、中原まり、ケン・タダシ・オオシマ、クリスティーヌ・ヴァンドルディ＝オザノ、太田泰人 於：鎌倉市商工会議所ホール

2) ギャラリートーク 9月21日 担当：太田泰人 10月12日 担当：三本松倫代

関連記事

▼展評：

「VISION 巡回中、まもなく開催、好評のうちにクローズした展覧会から」『デザイン&ミュージアム・リンク』0号(創刊準備号)、デザイン&ミュージアム・リンク、2007年10月、p.17

「レポート グローバルな視点からの回顧 建築と暮らしの手作りモダン アントニン&ノエミ・レーモンド展」『新建築 住宅特集』新建築社、2007年11月、pp.158-159

三本松倫代「アントニン&ノエミ・レーモンド展の開催について」『軽井沢ナショナルトラストだより』No.25、2007年12月、p.3

「レーモンド夫妻の業績展 県立近代美術館鎌倉 モダニズム建築の模型など」『読売新聞』朝刊、2007年9月16日、p.27



ポスター

担当学芸員コメント

レーモンドはその門下から吉村順三、前川國男などを輩出した日本近代建築の祖のひとりであり、日本文化の伝統を吸収したその仕事は世界のモダニズムの中でも独自の光彩を放っている。本展は、日米欧共同で調査を重ね、企画したもので、世界で初めての回顧展である。2006年6月にフィラデルフィアのペンシルヴァニア大学付属建築博物館からスタート。日本展では出品物を大幅に追加、カタログも独自に刊行、記念シンポジウムも開催したが、いずれも大好評であった。ル・コルビュジエ、フラー、ブルーヴェと続けてきたモダニズムの古典シリーズのひとつ。(太田泰人)

高野清見「建築望見 レーモンド展 妻の影響に注目 東京女子大寮解体も報告」『読売新聞』朝刊、2007年9月20日、19面

太田泰人「レーモンドの世界 上 霊南坂の自邸 集まる立方体 外と内の交感」『読売新聞』朝刊、2007年10月10日、29面

三本松倫代「レーモンドの世界 中 木の材質生かす 日本的手法」『読売新聞』朝刊、2007年10月12日、29面

太田泰人「レーモンドの世界 下 力強い造形 優れた音響も」『読売新聞』夕刊、2007年10月17日、29面

▼展覧会紹介：29紙/誌(31回)

▼情報掲載：9紙/誌(15回)

カタログ

25.7×18.7cm、104ページ、販売価格2,000円

多色140図、単色22図+48図(建築図面)

編集：神奈川県立近代美術館 太田泰人、三本松倫代

執筆：鈴木博之、三沢浩、松隈洋、太田泰人

翻訳：三本松倫代

デザイン：寺山祐策、大村麻起子

制作：Echelle-1、下田泰也、臺真理子

制作協力：大西伸一郎

印刷：耕文社

発行：Echelle-1、美術館連絡協議会

謝辞

あいさつ(日本展主催者)

レーモンドのもたらしたもの(鈴木博之)

A・レーモンドのモダニズム：その設計作法(三沢浩)

図版

レーモンドと日本(松隈洋)

交差する眼差し—戦前期のレーモンドについての断章(太田泰人)

略歴・主要作品年譜

参考文献



カタログ表紙

620

日本画変革の先導者 玉村方久斗展

TAMAMURA Hokuto: Revolutionary of the Japanese Style Painting

大正、昭和の前衛日本画家、玉村方久斗(善之助)(1893-1951)の孤高の芸術を約110点の作品を展示することで初めて全貌を明らかにする。

主催：神奈川県立近代美術館、京都国立近代美術館、日本経済新聞社

会期：2007年11月3日(土・祝)～12月16日(日)

開催日数：38日

出品総点数：209点(展示替有)

総観覧者数：5,015人

担当学芸員：橋秀文

関連企画

- 1) 講演会 11月8日「父・玉村方久斗のこと」玉村豊男
- 2) ギャラリートーク 11月18日、12月2日 担当：橋秀文

関連記事

▼展評：

橋秀文「art news 胸さわぎの画家玉村方久斗」『芸術新潮』新潮社、2008年1月、pp.106-110

「日本画変革の先導者 玉村方久斗展 怪奇 こっけい 哀感」『読売新聞』朝刊、2007年11月30日、33面

「画家・玉村方久斗の力量示す回顧展」『日本経済新聞』朝刊、2007年12月14日、44面

▼展覧会紹介：18紙/誌(23回)

▼情報掲載：9紙/誌(15回)

カタログ

29.8×22.6cm、184ページ、販売価格2,000円

多色305図、単色19図、挿図21図

編集：神奈川県立近代美術館、京都国立近代美術館

翻訳：小川紀久子

デザイン：川野直樹(美術出版デザインセンター)

制作：美術出版デザインセンター

発行：神奈川県立近代美術館、京都国立近代美術館

謝辞

あいさつ(主催者)

玉村方久斗という絵描き—初めての回顧展に際して(山梨俊夫)

玉村方久斗の煌めく芸術—古典と前衛の先に見出されたもの(橋秀文)

図版

玉村方久斗再考—その「前衛」姿勢に関連して(山野英嗣)

「日記体随筆」について—昭和10年代の玉村方久斗(加藤弘子)

玉村方久斗・略年譜

主要参考文献

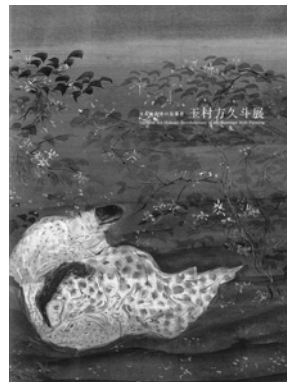
An Artist Who Reformed Nihonga: Tamamura Hokuto and His Art / Hidefumi Hashi

主要画題解説(小倉実子)

出品リスト



ポスター



カタログ表紙

担当学芸員コメント

公立美術館では初めての本格的な玉村方久斗展であった。それだけで価値あることだと思った。作品は、全国から多く集めることができ、玉村方久斗の作品は少ないという風説を翻す結果となった。玉村方久斗の名前は、一般にはほとんど知られず、入場者数もあまり伸びなかったが、大正、昭和初期の日本画の革命児の全貌を明らかにすることができ本望である。生まれ故郷の京都での巡回展では、市民の熱烈な支持を受けて大いに盛り上がった。(橋秀文)

621

中上清展 絵画から湧く光

NAKAGAMI Kiyoshi

近年、ソウル、ニューデリー、パリなど国際的な舞台でも活動を展開する、現代絵画の旗手中上清(1949-)の近作、新作を紹介。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：2008年1月4日(金)～3月16日(日)
開催日数：63日
出品総点数：24点
総観覧者数：5,442人
担当学芸員：榎山昌夫

関連企画

- 1)アーティスト対談 1月20日 中上清、山梨俊夫
- 2)ギャラリートーク 2月9日、3月8日 担当：榎山昌夫

関連記事

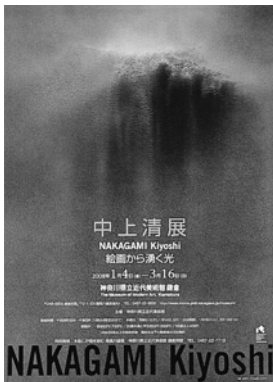
- ▼展評：
「光の絵画で個展 異次元空間演出」『日本経済新聞』夕刊、2008年1月10日、22面
田中三蔵「桑原盛行展と中上清展 絵の奥から不思議な光」『朝日新聞』夕刊、2008年1月16日、9面
藤島俊会「中上清展 絵画から湧く光 柔らかな光の劇的効果」『神奈川新聞』朝刊、2008年2月1日、13面
尹貴淑「中上清展 闇からの光を描く」『神奈川新聞』朝刊、2008年2月24日、6面
▼展覧会紹介：19紙/誌(24回)
▼情報掲載：10紙/誌(21回)

カタログ

29.7×23cm、62ページ、販売価格1,900円
多色26図、挿図18図
編集：榎山昌夫
製作・デザイン：求龍堂
発行：神奈川県立近代美術館

謝辞／Acknowledgement

ごあいさつ／Foreward
何故描くのか(中上清)／Why I Paint(Kiyoshi Nakagami)
中上清の新作について―彼方からの光(山梨俊夫)／On the New Works of Kiyoshi Nakagami: Light from Afar
図版
中上清の創作の軌跡(榎山昌夫)／Tracing the Development of Kiyoshi Nakagami's Creation(Masao Momiyama)
中上清年譜／Personal History of Kiyoshi Nakagami
中上清関連文献
作品リスト



ポスター



カタログ表紙

担当学芸員コメント

この展覧会では、中上清の現在の仕事を中心に見せることを意図して、作品の変遷に見られる彼の制作の連続性を意識しながらも、最も新しい作品から初期の作品に遡るような展示構成とした。図録も同様の構成としたが、この展覧会が中上清の美術館での最初の個展であることを考慮して、図録の資料的価値を重視し、年譜と文献目録を充実させるように努めた。(榎山昌夫)

622

版画家7人のメゾチント 浜口陽三、浜田知明、駒井哲郎、深沢幸雄、丹阿弥丹波子、秀島由己男、松本秀一
Seven Artists of Mezzotint

銅版画のなかでもビロードのような質感を特徴とするメゾチント。当館の版画コレクションのなかから、メゾチント技法を用いた作品約80点を展示。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：2007年4月7日(土)～6月17日(日)
開催日数：62日
出品総点数：89点
総観覧者数：2,606人
担当学芸員：長門佐季

リーフレット
14.6×29.7cm、A3三つ折1枚、無料配布、単色8図
編集・発行：神奈川県立近代美術館

出品リスト

関連企画

1) ギャラリートーク 5月5日 担当：長門佐季

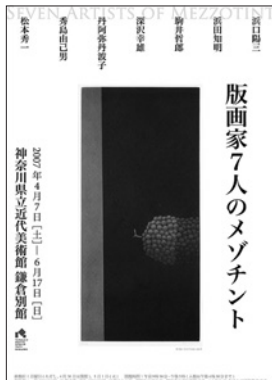
関連記事

▼展評：

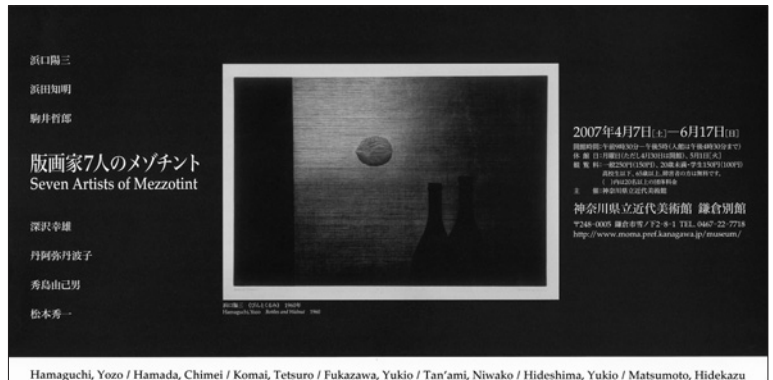
稲田佳代「重力失うモチーフ 版画家7人のメゾチント 県立近代美術館」『毎日新聞』朝刊、2007年4月11日、23面

▼展覧会紹介：6紙/誌(8回)

▼情報掲載：4紙/誌(5回)



ポスター



リーフレット表紙

担当学芸員コメント

今回の展覧会では、版画のなかでも「メゾチント」という技法に注目した。浜口陽三の活躍以降、世界的にも注目される日本のメゾチント。同じ技法を用いながらも7人の版画家の作品には、それぞれの異なる個性が見られる。版画展では来館者は技法への関心が強く質問が多く寄せられるため、今回はそうしたこともふまえて技法で展覧会をまとめ、リーフレットを作成した。一見、地味な展覧会ではあるが、版画を愛好する人にとっては銅版画の奥深さや表現の豊かさが感じられ、また、一般には当館が所蔵する豊富な版画コレクションの一端を示すよい機会になったのではないかと思う。(長門佐季)

623

生誕100年 斎藤清・墨画展 木版の作家とともに

The Centennial SAITO Kiyoshi: Monochrome Paintings

現代社会が失って久しい日本の心の風景を、独特の墨画によっても描き出した木版画家、斎藤清（1907-1997）の生誕100年展。同展示室にて、当館が収蔵する他の木版画家の作品も併せて紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2007年6月30日(土)～9月17日(月・祝)

開催日数：69日

出品総点数：51点

総観覧者数：3,491人

担当学芸員：是枝開

リーフレット

21×15.4cm、A3四つ折1枚、無料配布、多色2図、単色10図

編集・発行：神奈川県立近代美術館

作品目録

斎藤清年譜

そのほかの出品作家

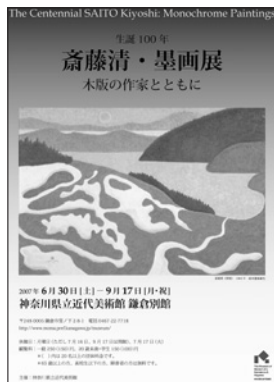
関連企画

1)ギャラリートーク 8月8日 担当：是枝開

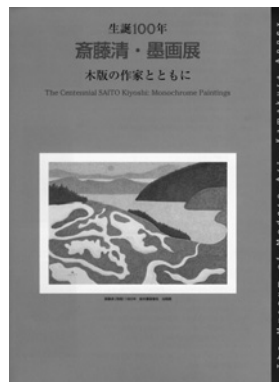
関連記事

▼展覧会紹介：8紙/誌(13回)

▼情報掲載：3紙/誌(4回)



ポスター



リーフレット表紙

担当学芸員コメント

当館所蔵の作品と併せて、三重県立美術館、町田市立国際版画美術館、小野忠重版画館の協力を得て各館所蔵の作品も展示。結果的に1940年から1983年までに制作された木版と墨画を通覧できる、生誕100年となる斎藤清の仕事を回顧する展覧会となった。当館が所蔵する同時代を生きた他の木版画家たちの作品も同展示室で紹介した。そのことにより、単なるセンチメンタルな世界に拘泥しない、斎藤作品の鍛え上げられた骨太の画面構成が生きた展示となったように思う。(是枝開)

624

所蔵品に見る 戦後の日本画 片岡球子・莊司福・上村松篁…

Japanese Style Painting after the World War

岩橋英遠、上村松篁、片岡球子、加藤栄三、莊司福、高山辰雄、堀文子など、戦後の日本画界にあつて充実した仕事を続けた作家の代表的大作、24作家26点による展示。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2007年9月29日(土)～12月16日(日)

開催日数：68日

出品総点数：26点

総観覧者数：4,440人

担当学芸員：橋秀文

リーフレット

21×14.9cm、A3四つ折1枚、無料配布、多色1図、単色25図

編集・発行：神奈川県立近代美術館

作品目録

作家／作品解説

関連企画

1) ギャラリートーク 11月4日 担当：橋秀文 12月1日 担当：朝木由香

関連記事

▼展覧会紹介：10紙/誌(17回)

▼情報掲載：9紙/誌(12回)



ポスター



リーフレット表紙

担当学芸員コメント

所蔵作品による作品が26点展示されたのであるが、そのほとんどが1981年に土方定一館長が亡くなる前に所蔵された作品であり、当館の日本画の所蔵作品の層が手薄であることをよく示した展覧会となった。そうした中で、ひときわ目立つのが、片岡球子の作品であったが、その片岡球子も2008年になつてすぐに亡くなり、当館としては、生前最後の展示となり、さびしい限りであった。(橋秀文)

625

木版に抒情を刻む 高橋力雄展

Lyricism of the Woodcut TAKAHASHI Rikio: Retrospective

国際的に活躍した版画家高橋力雄(1917-1998)の清新な抒情の世界を、作品・参考資料など、昨年度にご遺族からご寄贈いただいた約500点のうちから紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：2008年1月4日(金)～3月16日(日)
開催日数：63日
出品総点数：65点
総観覧者数：2,437人
担当学芸員：水沢勉、奥野美香

関連企画

1)ギャラリートーク 1月12日 担当：奥野美香

関連記事

▼展覧会紹介：14紙/誌(18回)

▼情報掲載：6紙/誌(7回)

カタログ

25.7×18.2cm、32ページ、販売価格900円、多色19図、単色7図、挿図1図
編集：神奈川県立近代美術館
デザイン：川野直樹
制作：美術出版デザインセンター
発行：神奈川県立近代美術館

謝辞

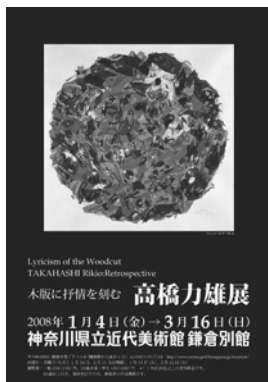
あいさつ(山梨俊夫)
微風のたまもの—高橋力雄の歩みをめぐって(水沢勉)

図版

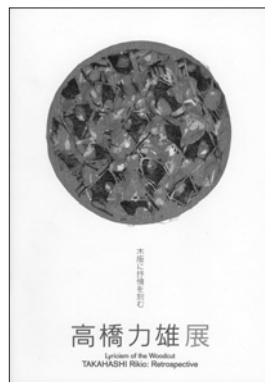
高橋力雄略歴

主要参考文献

出品リスト



ポスター



カタログ表紙

担当学芸員コメント

恩地孝四郎の最後の弟子として知られる高橋力雄の初期から晩年までの代表作による本格的な回顧展をめざした。幸いご遺族からのまとまった寄贈があり、異なった摺りのなかから良質のものを選ぶことができた。鮮烈な原色を多用した前期の作品と、淡い色調が支配的な後期の作品を、額装を変えることで、メリハリをつけることを心がけた。戦後の抽象木版画の分野に足跡を残した版画家の基準的な展覧会になったのではないと思う。(水沢勉)

2007年度展覧会 会期・観覧者数一覧

	展覧会名	会 期	日数	観 覧 料		観覧者数(人)				他館との 開催協力
						有料観 覧者数	無料観 覧者数	うち高校生以下 (高校生以下は 全展無料)	観覧者 数合計	
葉 山 館	佐伯祐三と佐野繁次郎展	4月7日(土)～ 5月20日(日)	38日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	1,000円 850円 500円	9,959	2,191	522	12,150	
	伊東豊雄 建築 新しいリアル	6月9日(土)～ 9月2日(日)	74日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	1,000円 850円 500円	11,198	7,389	2,864	18,587	巡回展 東京オペラシティー アートギャラリー せんだいメディアテーク
	イリヤ・カバコフ 『世界図鑑』絵本と原画	9月15日(土)～ 11月11日(日)	49日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	1,200円 1,050円 600円	6,806	4,956	1,368	11,762	巡回展 広島県立美術館 世田谷美術館 足利美術館
	プライマリー・フィールド	11月23日 (金・祝)～ 1月14日(月・祝)	41日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	900円 750円 450円	3,303	1,969	297	5,272	
	誌上のユートピア	1月26日(土)～ 3月9日(日)	38日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	1,000円 850円 500円	3,453	2,335	272	5,788	巡回展 うらわ美術館 愛知県美術館
	百花繚乱の絵画 第1部	3月29日(土)～ (3月30日(日) 次年度に継続)	2日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	800円 650円 550円	256	62	32	318	
	小 計		242日			34,975	18,902	5,355	53,877	
鎌 倉 館	近代絵画の名品展	4月7日(土)～ 6月17日(日)	62日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	700円 550円 350円	6,067	2,435	1,451	8,502	
	鶴岡政男展	6月30日(土)～ 9月2日(日)	56日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	800円 650円 400円	4,762	2,867	1,553	7,629	巡回展 群馬県立館林美術 館
	アントニン& ノエミ・レーモンド展	9月15日(土)～ 10月21日(日)	32日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	1,000円 850円 500円	9,223	2,521	598	11,744	巡回展 高崎市美術館 ペンシルヴァニア大学 付属建築博物館 カリフォルニア大学サンタ バーバラ校付属美術館
	玉村方久斗展	11月3日(土・祝)～ 12月16日(日)	38日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	900円 750円 450円	3,145	1,870	257	5,015	巡回展 京都国立近代美術 館
	中上清展	1月4日(金)～ 3月16日(日)	63日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	800円 650円 400円	3,787	1,655	517	5,442	
	百花繚乱の絵画 第2部	3月29日(土)～ (3月30日(日) 次年度に継続)	2日	一般 20歳未満・学生 65歳以上	700円 550円 350円	424	41	20	465	
	小 計		253日			27,408	11,389	4,396	38,797	
鎌 倉 別 館	版画家7人のメゾチント	4月7日(土)～ 6月17日(日)	62日	一般 20歳未満・学生	250円 150円	1,680	926	243	2,606	
	斎藤清・墨画展	6月30日(土)～ 9月17日(月・祝)	69日	一般 20歳未満・学生	250円 150円	2,031	1,460	476	3,491	
	戦後の日本画	9月29日(土)～ 12月16日(日)	68日	一般 20歳未満・学生	250円 150円	2,536	1,904	159	4,440	
	高橋力雄展	1月4日(金)～ 3月16日(日)	63日	一般 20歳未満・学生	250円 150円	1,419	1,018	127	2,437	
	百花繚乱の絵画 第3部	3月29日(土)～ (3月30日(日) 次年度に継続)	2日	一般 20歳未満・学生	250円 150円	189	20	4	209	
	小 計		264日			7,855	5,328	1,009	13,183	
	合 計	15展覧会	759日			70,238	35,619	10,760	105,857	

註)『百花繚乱の絵画』展では、3館共通券を発行した。 一般1,000円、20歳未満・学生850円、65歳以上500円。なお、当館はすべての展覧会について、高校生以下は無料である。

教育普及活動

受講・参加プログラム(講演会・ギャラリートーク・ワークショップ等)

事業名		事業内容				参加者数
		テーマ・内容	講師等	実施日時	実施場所	
展覧会 関連講演会等	佐伯祐三と佐野繁次郎 展関連座談会	「佐野繁次郎と佐伯祐三をめぐって」－ 佐野繁次郎の甥である鹿海信也氏を迎え、 佐野と佐伯のかかわりをめぐり、語りあう	元文化庁文化部長 鹿海信也、 当館専門学芸員 橋秀文	19年5月13日(日) 14時～16時	葉山館 講堂	70
	鶴岡政男展記念講演会	「鶴岡政男の芸術と人間」	群馬県立館林美術館学芸員 グループリーダー 徳江庸行	19年7月14日(土) 13時～15時	葉山館 講堂	14
	イリヤ・カバコフ展 記念講演会	イリヤ・カバコフ&ボリス・グロイス特別対談	美術作家 イリヤ・カバコフ、 カールスルーエ造形大学教授 ボリス・グロイス、 通訳 吉岡ゆき	19年9月15日(土) 13時～15時	葉山館 講堂	60
		イリヤ・カバコフ展記念講演会	千葉大学准教授 鴻野わか菜	19年10月13日(土) 14時～16時	葉山館 講堂	70
	アントニン・ノエミ・レー モンド展 記念シンポジウム	「レーモンドを再発見する」と題し、日米欧の キュレーター・建築家・建築史家が集まり、日 本と世界の交差する眼差しの中で立ちあら われる新しいレーモンド像とその今日的な意 義について議論する	建築家 北沢興一、京都工芸繊維大学准教 授 松隈洋、建築家 兼松紘一郎、ペンシルバ ニア大学付属建築博物館学芸員 ウィリア ム・ウィテーカー、カリフォルニア大学サンタバ バラ校付属美術館学芸員 カート・ヘルフリッ ク、オクタゴン博物館学芸員 中原まり、ワシント ン大学准教授 ケン・タダシ・オオシマ、ローザ ンズ連邦工科大学准教授 クリスティーン・ヴァ ンドルティ＝オザノ、当館普及課長 太田泰人	19年9月16日(日) 13時～16時	鎌倉市商 工会議所 ホール	179
	玉村方久斗展関連 講演会	エッセイスト 玉村豊男氏が、 父・玉村方久斗とその作品について語る	エッセイスト 玉村豊男	19年11月8日(木) 13時～14時	葉山館 講堂	64
	中上清展関連企画 アーティスト対談	中上清氏と当館館長との対談	画家 中上清、当館館長 山梨俊夫	20年1月20日(日) 15時～16時	鎌倉館 展示室	40
	〔県立機関活用講座〕 絵画と書籍の交感 (受講料:各回1,000円)	「画文交響－パンの会・「白樺」・ ヒュウザン会・草土社をめぐって－」	早稲田大学名誉教授 紅野敏郎	20年2月9日(土) 13時半～15時半	葉山館 講堂	24
		「『明星』と白馬会の画家たち」	石橋美術館学芸課長 森山秀子	20年2月23日(土) 10時半～12時半	葉山館 講堂	19
		「簗木清方、竹久夢二、橋口五葉－ 口絵から絵はがきへ－」	帝塚山学院大学教授 山田俊幸	20年2月23日(土) 13時半～15時半	葉山館 講堂	25
		「竹久夢二・恩地孝四郎・田中恭吉－ 詩と版画の融合をもとめて」	聖徳大学講師 桑原規子	20年3月8日(土) 10時半～12時半	葉山館 講堂	46
		「近世の画家と書物」	武蔵野美術大学教授 玉蟲敏子	20年3月8日(土) 13時半～15時半	葉山館 講堂	25
ワー クシ ョッ プ	伊東豊雄展関連ワー クショップ(参加費:1,000 円(材料費・保険代))	「こども建築ワークショップ－ 伊東豊雄さんと「やわらかな家」を作ろう!」	建築家 伊東豊雄	19年7月28日(土) 10時～16時半	葉山館 中庭	21
	鶴岡政男展関連 ワークショップ	夏休み子ども鑑賞プログラム 「発見! 絵のなかに生きるもの」	当館学芸員 平井鉄寛	19年8月18日(土) 10時～15時	鎌倉館会議 室・展示室	10
ギャ ラ リ ー ト ー ク 等	ギャラリートーク佐伯祐 三と佐野繁次郎展	学芸員による作品解説	当館専門学芸員 橋秀文	19年4月18日 (水)14時	葉山館 展示室	15
	ギャラリートーク／佐伯 祐三と佐野繁次郎展	学芸員による作品解説	当館専門学芸員 橋秀文	19年5月16日 (水)14時	葉山館展 示室・講堂	80
	ギャラリートーク／ 近代絵画の名品展	学芸員による作品解説	当館学芸員 三本松倫代	19年4月28日 (土)15時	鎌倉館 展示室	9
	ギャラリートーク／ 版画家7人のメゾチント	学芸員による作品解説	当館学芸員 長門佐季	19年5月5日 (土・祝)14時	鎌倉別館 展示室	9
	ギャラリートーク／ 伊東豊雄展	伊東豊雄氏自身による作品解説	建築家 伊東豊雄	19年6月16日 (土)14時	葉山館 展示室	200
	ギャラリートーク／ 伊東豊雄展	伊東豊雄建築設計事務所所員による 作品解説	伊東豊雄建築設計事務所所員	19年6月23日 (土)14時	葉山館 展示室	30

ギャラリートーク／ 伊東豊雄展	ギャラリートーク／ 伊東豊雄展	伊東豊雄建築設計事務所所員による 作品解説	伊東豊雄建築設計事務所所員	19年7月7日 (土)14時	葉山館 展示室	30
	ギャラリートーク／ 伊東豊雄展	伊東豊雄建築設計事務所所員による 作品解説	伊東豊雄建築設計事務所所員	19年7月21日 (土)14時	葉山館 展示室	30
	ギャラリートーク／ 伊東豊雄展	伊東豊雄建築設計事務所所員による 作品解説	伊東豊雄建築設計事務所所員	19年8月4日 (土)14時	葉山館 展示室	30
	ギャラリートーク／ 伊東豊雄展	伊東豊雄建築設計事務所所員による 作品解説	伊東豊雄建築設計事務所所員	19年8月11日 (土)14時	葉山館 展示室	30
	ギャラリートーク／ 伊東豊雄展	伊東豊雄建築設計事務所所員による 作品解説	伊東豊雄建築設計事務所所員	19年8月18日 (土)14時	葉山館 展示室	80
	ギャラリートーク／ 伊東豊雄展	伊東豊雄建築設計事務所所員による 作品解説	伊東豊雄建築設計事務所所員	19年8月25日 (土)14時	葉山館 展示室	30
	ギャラリートーク／ 鶴岡政男展	学芸員による作品解説	当館館長 山梨俊夫	19年7月7日 (土)14時	鎌倉館 展示室	10
	ギャラリートーク／ 鶴岡政男展	学芸員による作品解説	当館館長 山梨俊夫	19年8月4日 (土)14時	鎌倉館 展示室	5
	ギャラリートーク／ 斎藤清・墨画展	学芸員による作品解説	当館主任学芸員 是枝開	19年8月8日 (水)14時	鎌倉別館 展示室	11
	ギャラリートーク／ レーモンド展	学芸員による作品解説	当館普及課長 太田泰人	19年9月21日 (金)15時	鎌倉館 展示室	21
	ギャラリートーク／ レーモンド展	学芸員による作品解説	当館学芸員 三本松倫代	19年10月12日 (金)15時	鎌倉館 展示室	35
	ギャラリートーク／ カバコフ展	学芸員による作品解説	当館学芸員 榎山昌夫	19年9月29日 (土)14時	葉山館 展示室	50
	ギャラリートーク／ カバコフ展	学芸員による作品解説	当館学芸員 榎山昌夫	19年10月27日 (土)14時	葉山館 展示室	35
	ギャラリートーク／ 戦後の日本画展	学芸員による作品解説	当館専門学芸員 橋秀文	19年11月4日 (日)14時	鎌倉別館 展示室	10
	ギャラリートーク／ 戦後の日本画展	学芸員による作品解説	当館学芸員 朝木由香	19年12月1日 (土)14時	鎌倉別館 展示室	8
	ギャラリートーク／ 玉村方久斗展	学芸員による作品解説	当館専門学芸員 橋秀文	19年11月18日 (日)14時	鎌倉館 展示室	6
	ギャラリートーク／ 玉村方久斗展	学芸員による作品解説	当館専門学芸員 橋秀文	19年12月2日 (日)14時	鎌倉館 展示室	20
	ギャラリートーク／プライ マリー・フィールド展	学芸員による作品解説	当館主任学芸員 是枝開	19年12月8日 (土)14時	葉山館 展示室	2
	ギャラリートーク／プライ マリー・フィールド展	学芸員による作品解説	当館主任学芸員 是枝開	19年12月15日 (土)14時	葉山館 展示室	2
	ギャラリートーク／ プライマリー・フィールド展	林道郎氏と出品作家による作品解説	美術批評家 林道郎、出品作家 吉川陽一 郎、多和圭三、大森博之、石川順恵、青木 野枝、坂口寛敏、さかざしよしお	19年12月23日 (日・祝) 13時～17時	葉山館 展示室	60
	ギャラリートーク／ 高橋力雄展	学芸員による作品解説	当館学芸員 奥野美香	20年1月12日 (土)14時	鎌倉別館 展示室	17
	ギャラリートーク／ 誌上のユートピア展	学芸員による作品解説	当館専門学芸員 橋秀文	20年2月9日 (土)11時	葉山館 展示室	10
	ギャラリートーク／ 誌上のユートピア展	学芸員による作品解説	当館専門学芸員 橋秀文	20年2月16日 (土)14時	葉山館 展示室	25
	ギャラリートーク／ 誌上のユートピア展	学芸員による作品解説	当館企画課長 水沢勉	20年3月1日 (土)14時	葉山館 展示室	18
	ギャラリートーク／ 中上清展	学芸員による作品解説	当館学芸員 榎山昌夫	20年2月9日 (土)15時	鎌倉館 展示室	8
	ギャラリートーク／ 中上清展	学芸員による作品解説	当館学芸員 榎山昌夫	20年3月8日 (土)15時	鎌倉館 展示室	10

研修等受入れプログラム

1) 博物館実習：6名受入れ

大学での博物館学履修学生を対象に、学芸員資格取得に必要な博物館実習を行っている。年により実習生の受入れ状況は異なるが、本年は6大学から6人を受入れた。学芸員の様々な日常業務の一部を実際に体験できるよう、また各人の適性や大学からの履修条件も考慮し、実習期間や日程を学生ごとに振分けて行った。学生の実習内容充実と、学芸員の業務と実習指導との両立を期すため、応募者を書類と面接により選考し、受入れている。

2) インターン研修：3名受入れ

インターン研修は大学院生を対象に行っている。学芸部門と保存修復部門とがあり、あらかじめ各部門に研修希望登録をした学生のなかから若干名を採用する。本年は学芸部門に5名、保存修復部門に1名の研修希望登録者があり、その中から学芸部門に3名が採用された。採用された学生には学芸員又は研究員1名が指導者としてつき、実際に展覧会や学芸の専門的業務を行いながら研修を進める。本年の3名については、各々160時間以上の研修を行い、修了証を発行した。

3) 職場体験：4中学校、延べ7回、20名以上を受入れ

中学校のカリキュラムとして行われている職場体験を受入れている。おもに近隣の中学校の生徒が、受付や観覧券のもぎり、お客様の案内、学芸員の日常業務など、美術館での様々な業務を体験する。

4) 教員研修：5回164名受入れ

おもに県内の小・中・高校の先生方、初任者研修や各種の教員研修を受入れている。美術館業務の体験を通じての研修のほかにも、美術館の説明や教育普及活動の紹介、美術館と所蔵作品を楽しむキットなど当館で独自に開発した教材の情報を提供し、美術館を授業の中に取り入れていく工夫を支援している。本年は、博物館実習に準ずる内容での教員研修のほか、「アートカードを使った鑑賞学習指導法」「模範授業—美術館キット『Museum Box 宝箱』で遊ぼう」「『学校へ行こう週間』における公開授業への助言」などを行った。

5) 学校等教育機関の団体観覧

学校等教育機関での団体観覧がある場合、できるだけ事前に引率の先生と連絡を取り、必要に応じて、美術館での過ごし方や作品の楽しみ方などについての事前授業を支援するよう努めている。(事前申込により把握している数。事前申込のない団体もあるため、実数はこのデータを上回る。なお人数は引率者を含める)

幼稚園 1回14名

小学校 5校、延べ6回、416名

中学校 13校、延べ20回、465名

高校 7校、延べ8回、337名

大学 10校、延べ13回、609名以上

教育委員会その他教育機関 11団体、延べ11回208名

6) 出張授業：2中学校、延べ2回、156名受講

学芸員が学校に出向き、展覧会や美術館の所蔵作品を取り上げて授業を行う。

美術館活用推進委員会

2003年に葉山館が開館したことを契機に、地域・学校との連携を目指して葉山町と共同で、2004年に文化庁の助成金を得て文化体験プログラムを実施した。2006年にも文化体験プログラム「謎解き宝箱」の実施をしている。これらの活動を発展させ、2007年度には、葉山町、逗子市、鎌倉市、神奈川県立近代美術館が相互の理解を深め、美術館を多面的な形で活用することを目指して「美術館活用推進委員会」が形成され、互いの議論を深めるプラットフォームづくりが進められている。

「美術館活用推進委員会」には、各教育委員会、教員、大学教授、NPO、在野の美術館活動研究者、当館学芸員など、さまざまな立場の人間が集って意見交換を行っている。本年は葉山館で2回の会合を持ち、延べ40人が参加した。

美術図書室

1) 資料の収集・整理

・蔵書数(システム登録点数) 55,769点

・2007年度新規登録点数 3,800点(うち購入570点)

・雑誌タイトル数(システム未登録) 約800タイトル

美術図書室が扱う資料は、美術関係を中心とした和洋書、展覧会図録、国内外の雑誌・年報・紀要、CDやDVDなどの視聴覚資料、またさらに、ニューズレターや展覧会案内チラシ・はがきなど多岐にわたっている。ほとんどの資料は、寄贈や当館発行資料との交換によって受け入れている。

これらの資料をさまざまなキーによって検索、利用できるよう整理を行っている。そのうち、図書、図録、視聴覚資料については、図書情報システムにデータを登録し、当館ホームページ上で検索が可能になっている。

雑誌については所蔵状況を点検し、リストを作成中で、2008年度に図書情報システムへの登録を行う予定である。ニューズレターについてもリストを作成中である。

展覧会案内はがきや作家紹介のパンフレット、ポートフォリオなど、図書の形態をなしていない紙資料は、作家別のファイルを作成中である。

2) 特別コレクション

現在、「山口蓬春文庫」「矢代幸雄文庫」「仲田定之助文庫」「斎藤義重文庫」がある。いずれも整理途上であるが、事前に連絡をいただければ、研究目的の利用に供することが可能である。未定

稿ながら目録(リスト)も作成済である。

「矢代幸雄文庫」については、図書資料の一部が図書情報システムに登録され、ホームページ上で検索が可能である。

「山口蓬春文庫」については、冊子体の目録を作成する準備を始めたところである。

3) 閲覧サービス

- ・2007年度年間入室者数 4,157名(開館日1日平均17名)
- ・年間複写枚数 1,576枚(開館日1日平均6.5枚)
- ・年間レファレンス受付件数 82件

閲覧室は美術館開館日に限り公開している。閲覧室への入室は無料で、展覧会を観覧しない場合でも入室できる。

資料の館外貸出は行っていないが、複写サービスや、美術資料に関する質問への回答(レファレンスサービス)を行っている。

公開書架には、近年の展覧会図録や美術全集など約4000冊を配架している。2007年度は書庫内図書との入れ替えを行い、新たに「絵本と子どもの本」「葉山・鎌倉の本」のコーナーを新設した。

また、閲覧室では、当館の展覧会の関連資料・参考文献を、各展覧会の会期中に特集展示している。「アントニン&ノエミ・レーモンド展」(鎌倉館で開催)に関する展示に際しては、展示資料リストを作成し、鎌倉館でも配布した。

美術館紹介・広報(展覧会紹介を除く)

美術館紹介記事

25誌26回

普及活動関連の紹介記事

児島やよい「建築を体験する 美術館での子どもワークショップから表現者も共に学ぶ」『東京新聞』朝刊、2007年9月8日、18面
秋山理砂「県立近代美術館 宝箱 美術鑑賞もっと身近に」『神奈川新聞』朝刊、2007年7月9日、8面
総計8誌8回

収蔵品紹介記事

天野一夫「異端画家の命脈：片岡球子」『片岡球子論—その圧縮空間の強度』『REAR』vol.17、リア制作室、2007年9月、pp.10-13
浦田憲治「美の美 日本のシュルレアリスム! 古賀 春江」『日経新聞』朝刊、2007年6月3日、18-19面
後藤耕二「古賀春江の絶筆への一考察」『西日本新聞』、2007年9月29日、17面
見田崇志「『幻』の原爆慰霊碑」ってあるの? イサム・ノグチ氏が設計」『中国新聞』朝刊、2008年2月25日、18面
総計22紙/誌(32回)

前年度の展覧会記事

9誌9回

次年度の展覧会記事

4誌4回

ショップ・レストラン紹介記事

4誌4回



1

伊東豊雄 建築 | 新しいリアル 鑑賞リーフレット

編集・発行: 神奈川県立近代美術館

デザイン: 今井千恵子 (n.b graphics)

制作: コギト

51.0×41.0cm、四つ折、無料配布、両面カラー

2

戦後の日本画 鑑賞ポケットガイド
—日本画編—

編集: 神奈川県立近代美術館

(平井鉄寛・是枝開)

発行: 神奈川県立近代美術館

制作: 印象社

14.8×10.4cm、14ページ、無料配布、

多色14図

砂と岩: 加藤栄三《石庭》

空気: 上村松篁《鶴》

線のかたち: 望月春江《地》

塗り重ね: 吉岡堅二《太陽と不死鳥》

観察: 堀文子《霧氷》

ものの質感: 麻田鷹司《崑》

地と絵柄: 小倉遊亀《牡丹》

3

たいせつな風景8号

編集・発行: 神奈川県立近代美術館

制作: 美術出版デザインセンター

21×14.8cm、16ページ、無料配布、

多色1図、単色9図

2007年9月30日発行

図版 谷中安規『幻想集』10《雲》

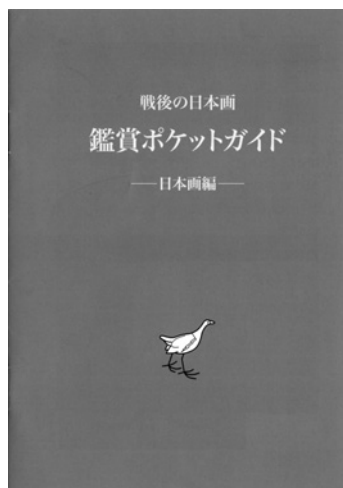
雲 五島高資

雲の教え 松浦寿夫

幻の雲 城戸朱理

表紙作品解説 浜口陽三《雲》長門佐季

図版 勝呂忠《移行する雲》





4

たいせつな風景9号

編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：美術出版デザインセンター
21×14.8cm、16ページ、無料配布、
多色1図、単色10図
2008年3月31日発行

図版 柄澤齊『死と変容』第一集 夜-3 日蝕
トウネンの耳 梨木香歩
図版 堀内正和《ウインクするミミちゃん》
美術と医学の間の「耳」——私にとっての三木富
雄作品 馬場駿吉
耳を作る男 鷺見和紀郎
図版 三木富雄《EAR No.3》
研究資料の整理 前田富士男
浜田知明の「大きな耳」 表紙作品解説 榎山
昌夫
図版 浜田知明《情報過多人間》

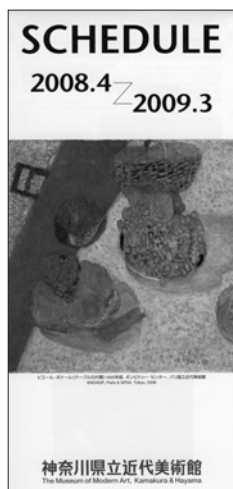


5

2006年度年報

編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：美術出版デザインセンター
25.7×18.2cm、64ページ、無料配布、
単色38図、単色挿図29点
2008年3月31日発行

2007年度美術館活動記録展覧会
教育普及活動
刊行物(展覧会図録を除く)
館外貸出作品一覧
修復報告・修復作品リスト
2006年度新収蔵作品
2006年度普及活動を振り返って[稲庭彩和子]
真下美佐男版画コレクションの特色とその意義
[橋秀文]
2006年度神奈川県立近代美術館職員一覧



6

2008年度展覧会スケジュール

編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：求龍堂
21×10cm、三つ折1回二つ折1回1枚、無料配布、多色20図
三館展覧会スケジュール
観覧料、利用案内、地図



わくわくゆったりセット 半券付きチラシ



伊東豊雄展 会場風景



伊東豊雄展 子ども建築ワークショップ



「やわらかな家」の完成 伊東さんを囲む参加者

いとなかなか成果がでにくい。そこで、この委員会は美術館と地元2市1町の教育委員会、県の教育委員会、そして客観的な立場から発言できるNPOや大学の有識者、また美術館ではない生涯学習施設の専門家と、通常は一緒に話し合う機会が少ない横断的な組織からのメンバー構成をとり、定期的に話し合う中で進められている。

2007年度委員は次のとおり(敬称略 順不同)

岩崎清(当委員会委員長、元子どもの城学芸部長)、木下直之(東京大学教授 文化資源学)、松尾子水樹(NPO法人STスポット横浜)、小山紳一郎(かながわ国際交流財団)、高木孝之・勝田新(鎌倉市教育委員会)、柳原正広・高館正明(逗子市教育委員会)、富樫俊夫・倉内大史(葉山町教育委員会)、日比野典明(県教育委員会 生涯学習文化財課)、松岡潤治(同 企画調整課)、小野範子(同 子ども教育支援課)、甲斐秀幸(同 高校教育課)、山梨俊夫(当館館長)、太田泰人(当館普及課長)

●夏休み わくわくゆったりセット 配布キャンペーン

美術館活用推進委員会に参加している地元市町の学校を中心に、夏休み前に「夏休みは海に見える美術館に行こう!」と題された半券付きのチラシを配布し、その半券に18歳以下の子どもや学生が学校名と学年を書いて来館すると、引き換えに「わくわくゆったりセット」と名付けられた「美術館ルールブック、彫刻マップ、伊東豊雄展リーフレット(p.7, p.26を参照)、所蔵品ポストカード、ミュージアムショップ・レストランのサービス券、」などが入ったビニールバッグをもらえるキャンペーンを行った。当館の18歳以下の入館者の割合は平均5%ほどが多く、チラシを配布している地域もそれほど広くないため、当初300袋ぐらいが必要と予想していたが、結果的には約1300袋が引き換えられ、予想以上の反応を得る結果となった。学校に配布するチラシの場合、子どもが一目見てわかるレイアウトで、書き込み式の切り取り部分があると効果が上がることが分かってきた。またすべての展示会が高校生以下無料というこの館の特徴も改めてこのチラシで知らせる機会となった。

●子ども建築ワークショップ —伊東豊雄さんと「やわらかな家」を作ろう!—

葉山館で開催の伊東豊雄展の関連企画として、夏休みの子ども向けのワークショップが行われた。基本案を伊東豊雄建築設計事務所が企画し、美術館側と打ち合わせを重ね、準備には神奈川県内の大学(横浜国立大学、神奈川大学、SFC慶応大学)から集まった学生ボランティアが20名も加わるという、当館ではこれまでにない試みとなった。建築設計事務所スタッフ、美術館スタッフ、学生スタッフを合わせると参加する子どもたちと同じぐらいの人数がサポートし、共に楽しみ、濃密な活動となった。手作りの小さなウレタンを詰めた布袋約900個をつなげて「アーチ」を作り、さらに積みあげ、人の入ることのできる大きさの空間をつくっていく。立体を作る際の原理を理解しながら生き物のようにやわらかい空間を作り、ものづくりの楽しさを体験してもらおうという趣旨のワークショップだ。有名建築家と共に家を作るということで、申込者多数、抽選の上、当選した20名の子どもが参加した。後日この出来上がった柔らかな家は館内にも展示をした。

作品蒐集管理活動

【購入・寄贈状況】

前年度末の総点数	9,714点
平成19年度の購入点数	15点
平成19年度の寄贈点数	412点
平成19年度の取得総点数	427点
平成19年度末の収蔵総点数	10,141点

【寄託状況】(平成20年3月31日現在)

平成18年度からの更新分	58件	(58名)	作品点数247点
平成19年度受入新規分	7件	(7名※)	作品点数 37点
※7名中の4名は既寄託者			
平成19年度合計	61件	(61名)	作品点数284点

2007年度 新収蔵作品一覧

[凡例1] 寸法について、原則として平面作品は縦×横の順に、立体作品は高さ×幅×奥行の順に記した。単位はcm(センチメートル)である。但し、版画については、イメージ寸法:縦 / 支持体寸法:縦×イメージ寸法:横 / 支持体寸法:横の順に「/」で区切って記した。
[凡例2] 署名年記は書き込みの位置を示し、記した。印、落款は「 」で記した。文字が判別できない場合は□で補い、書き込みが無い場合は「-」で記した。

購入

作家名	作品名	技法・材質	制作年	寸法(cm)	備考
油彩・アクリル画など					
石川順恵	赤・青灰色	油彩、カンヴァス	1989	140.0×140.0	
大森博之	彫刻の関	鉛筆、油彩、カンヴァス	2007	45.0×53.0	
坂口寛敏	暖かいイメージのために95-4	アクリル絵具、緑チョーク、樹脂、グラファイト、カンヴァス	1995	180.0×160.0	
ブルリユク、ダヴィド	ウラル	油彩、厚紙(台紙貼)	不詳	13.0/22.0×13.9/16.2	
中上清	無題	アクリル絵具、カンヴァス	2007	227.5×181.7	
彫刻・インスタレーション					
青木野枝	空の水-1	鉄	2007	201.0×73.0×73.0	
大森博之	背後の手前	磁土	2006	20.0×16.0×14.0	
大森博之	背後の手前	磁土	2007	20.0×17.0×14.0	
さかぎよしお	5013	磁土	2005	12.6×7.0×5.6	
さかぎよしお	6008	磁土	2006	6.5×12.0×8.3	
さかぎよしお	7003	磁土	2007	6.5×6.0×5.1	
多和圭三	無題	鉄	1992	40.0×25.5×14.5	
吉川陽一郎	旅行案内-砂漠編	鉄、ポリプロピレン樹脂	2004	265.0×165.0×215.0	
2007年度神奈川県立近代美術館賞					
菊池忍円	無題	油彩、カンヴァス	2007	182.0×227.0	第43回神奈川県美術展
久留宮和子	The cosmos	油彩、カンヴァス	2007	163.5×163.5	第47回神奈川県女流美術家協会展

寄贈

作家名	作品名	技法・材質	制作年	寸法(cm)	署名年記	備考
〈美浦康重氏寄贈〉						
版画						
柄澤齊	頭	木口木版、紙	1971	6.4/16.0×7.2/19.4	中：A.P. 頭 '71 H.Karasawa	
柄澤齊	盲天使の鏡	木口木版(鏡貼り)、紙	1973	16.0/31.0×19.6/40.0	中：20/20 盲天使の鏡 H.Karasawa	
柄澤齊	ユダの死	木口木版、紙	1973	20.0/30.7×15.3/25.5	中：4/20 ユダの死 Hitoshi Karasawa	
柄澤齊	ソドムの胚	木口木版(鏡貼り)、紙	1973	9.3/21.4×8.0/16.8	中：2/20 ソドムの胚 Hitoshi Karasawa	
柄澤齊	ゴモラの胚	木口木版(鏡貼り)、紙	1973	9.1/20.6×7.1/17.0	中：14/20 ゴモラ胚 Hitoshi Karasawa	
柄澤齊	エピメテウスの甕	木口木版、紙	1973	7.5/19.5×10.8/24.3	中：ép. d'artiste エピメテウスの甕 Hitoshi Karasawa	
柄澤齊	エレメンタ	木口木版、紙	1974	11.0/23.0×10.0/19.1	左：16/20 エレメンタ 右：Hitoshi Karasawa	
柄澤齊	ヴァチカン	木口木版、紙	1977	10.0/28.5×14.8/35.4	中：47/50 Hitoshi Karasawa 中下：ヴァチカン	
柄澤齊	オストラコン II	木口木版、紙	1977	12.0/28.2×6.8/19.0	中：62/70 Hitoshi Karasawa 中下：オストラコン II	
柄澤齊	黄泉	木口木版、紙	1977	14.6/35.2×10.2/28.3	中：25/50 Hitoshi Karasawa 中下：黄泉	
柄澤齊	隕石 I	木口木版、紙	1977	9.8/28.4×15.1/35.5	中：ép. d'artiste Hitoshi Karasawa 中下：隕石 I	
柄澤齊	老いたる貝	木口木版、紙	1977	2.7/11.0×1.3/7.3	中：4/30 Hitoshi Karasawa 中下：老いたる貝	
柄澤齊	ベルソナ	木口木版、紙	1977	3.3/13.0×2.2/8.4	中：3/30 H. Karasawa 中下：ベルソナ	
柄澤齊	船	木口木版、紙	1977	10.0/28.4×15.1/35.4	中：17/50 Hitoshi Karasawa 中下：船	
柄澤齊	漂流物 I	木口木版、紙	1977	15.1/35.2×10.1/28.6	中：17/50 Hitoshi Karasawa 中下：漂流物 I	
柄澤齊	漂流物 II	木口木版、紙	1977	9.9/28.1×15.1/35.4	中：30/50 H. Karasawa 中下：漂流物 II	
柄澤齊	迷宮浮上	木口木版、紙	1977	15.0/35.1×10.2/28.2	中：44/50 Hitoshi Karasawa 中下：迷宮浮上	
柄澤齊	泉	木口木版、紙	1977	2.4/10.6×5.8/14.5	中：23/50 H.Karasawa 中下：泉	
柄澤齊	真珠頰	木口木版、紙	1978	8.2/19.0×5.2/14.0	中：27/70 H.Karasawa 中下：真珠頰	
柄澤齊	真珠 I	木口木版、紙	1978	5.0/14.1×7.9/19.0	中：8/50 H.Karasawa 中下：真珠 I	大阪版画友の会刊
柄澤齊	星杯	コラージュ、墨、 不透明水彩、紙	1978	16.6/24.7×19.0/26.5	左：星杯 '78 右：Hitoshi Karasawa	
柄澤齊	この星は底なき穴の鍵を 與へられたり	コラージュ、墨、 不透明水彩、紙	1978	19.8/27.4×28.3/35.8	左：この星は底なき穴の鍵を與へられたり (黙示録第九章一節より) '78 右：Hitoshi Karasawa	
柄澤齊	天文台	木口木版、紙	1979	17.5/38.1×14.3/28.2	中：27/70 H.Karasawa 中下：天文台 右下：'80	
柄澤齊	花粉	木口木版、紙	1979	10.9/28.5×15.9/38.4	中：11/70 Hitoshi Karasawa 中下：花粉 右下：'79	『コスモス通信』1984年 春号No.6 櫻花書林 刊
柄澤齊	クロノスの盃	コラージュ、墨、 不透明水彩、紙	1979	42.7/53.9×42.7/73.9	左下：クロノスの盃 右下：Hitoshi Karasawa	
柄澤齊	沈黙 I 牡蠣	木口木版、紙	1980	12.1/28.0×15.2/35.0	中：3/70 Hitoshi Karasawa 中下：沈黙 I 牡蠣 右下：'80	
柄澤齊	沈黙 II 水	木口木版、紙	1980	16.5/35.0×11.7/28.5	中：35/70 Hitoshi Karasawa 中下：沈黙 II 水 右下：'80	
柄澤齊	鬼火 I	木口木版、紙	1980	13.7/25.2×5.3/17.2	中：11/70 Hitoshi Karasawa 中下：鬼火 I	
柄澤齊	鬼火 II	木口木版、紙	1980	10.3/25.4×7.3/17.3	中：11/70 Hitoshi Karasawa 中下：鬼火 II	
柄澤齊	記憶 I	木口木版、紙	1980	12.2/25.0×15.9/18.7	中：1/5 Hitoshi Karasawa 中下：記憶 I 右下：'80	《沈黙 I 牡蠣》の原版 から型取りした練りゴム 版
柄澤齊	記憶 II	木口木版、紙	1980	16.7/31.0×12.3/23.8	中：1/5 Hitoshi Karasawa 中下：記憶 II 右下：'80	

作家名	作品名	技法・材質	制作年	寸法 (cm)	署名年記	備考
柄澤齊	対話	木口木版、紙	1981	11.0/28.0×13.1/33.5	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:対話 右下:81	
柄澤齊	朝	木口木版、紙	1981	12.5/28.0×14.6/35.3	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:朝 右下:81	
柄澤齊	樹	木口木版、紙	1981	15.5/38.5×11.5/28.4	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:樹 右下:81	
柄澤齊	森へ	木口木版、紙	1981	15.3/38.3×11.3/28.0	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:森へ 右下:81	
柄澤齊	孔雀	木口木版、紙、手彩色	1981	4.0/13.0×11.0/17.8	中:1/90 H.Karasawa 中下:孔雀 右下:81	
柄澤齊	花の肖像	木口木版、紙、手彩色	1981	4.0/12.8×1.4/9.0	中:ep 14/20 H.K 中下:花の肖像 右下:81	日本ミニチュア版画 クラブ刊
柄澤齊	肖像Ⅰ クラウディオ・モンテヴェルディ	木口木版、紙	1981	12.0/25.5×6.4/19.0	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像Ⅰ C・モンテヴェルディ 右下:81	
柄澤齊	肖像Ⅱ アルブレヒト・デューラー A	木口木版、紙	1981	15.1/35.0×10.1/28.5	中:22/55 Hitoshi Karasawa 中下:肖像Ⅱ A・デューラー A	
柄澤齊	肖像Ⅱ アルブレヒト・デューラー B	木口木版、紙、墨	1981	15.1/35.4×10.1/28.4	中:1/15 Hitoshi Karasawa 中下:肖像Ⅱ A・デューラー(B) 右下:81	
柄澤齊	肖像Ⅲ ヴォルフガング・アマデウス・ モーツァルト	木口木版、紙	1981	6.7/19.2×11.5/25.5	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像Ⅲ W.A.モーツァルト 右下:81	
柄澤齊	蔵書票	木口木版、紙	1982	5.5/10.1×3.2/7.1	—	
柄澤齊	切手Ⅰ J.Gutenberg	木口木版、紙、手彩色、 目打ち穴	1982	4.6/14.4×3.0/11.7	中:1/70 H. Karasawa 中下:切手Ⅰ 右下:82	
柄澤齊	切手Ⅱ 司馬江漢	木口木版、紙、手彩色、 目打ち穴	1982	4.6/14.4×3.0/11.7	中:32/70 H. Karasawa 中下:切手Ⅱ 右下:82	
柄澤齊	肖像Ⅳ アルチュール・ランボー	木口木版、紙	1982	19.6/38.3×14.6/28.5	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像Ⅳ アルチュール・ランボー 右下:82	
柄澤齊	肖像Ⅴ ロドルフ・ブレダン	木口木版、紙	1982	15.0/25.5×9.5/19.0	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像Ⅴ ロドルフ・ブレダン	
柄澤齊	ビュランB	木口木版、紙、墨	1983	3.2/10.3×10.5/19.0	中:1/50 H. Karasawa 中下:ビュランB 右下:83	
柄澤齊	ハレー彗星飛来記念切手	木口木版、紙、手彩色、 目打ち穴	1983	4.4/9.5×6.1/10.7	左:1/76 '89 右:Hitoshi Karasawa	
柄澤齊	Elementa	木口木版、木	1983	7.9×7.9×7.9	—	
柄澤齊	肖像Ⅵ マルセル・ブルースト	木口木版、紙	1983	10.0/28.5×15.1/35.0	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像Ⅵ M・ブルースト 右下:83	
柄澤齊	肖像Ⅶ シャルル・ボードレール	木口木版、紙	1983	17.5/38.3×16.0/30.4	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像Ⅶ シャール・ボードレール 右下:83	
柄澤齊	肖像Ⅷ ルカス・クラナッハ	木口木版、紙	1983	19.9/37.6×13.1/28.4	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像Ⅷ ルカス・クラナッハ 右下:83	
柄澤齊	肖像Ⅸ フランツ・カフカ	木口木版、紙、墨	1983	18.3/38.2×13.4/28.5	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像Ⅸ フランツ・カフカ 右下:83	
柄澤齊	肖像Ⅹ ヘルキュレス・セーヘルズ	木口木版、紙	1983	13.5/28.5×19.5/37.8	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像Ⅹ ヘルキュレス・セーヘルズ 右下:83	
柄澤齊	肖像Ⅺ ジェームズ・アンソール	木口木版、紙	1983	16.6/35.0×13.5/26.5	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像Ⅺ J・アンソール 右下:83	
柄澤齊	肖像Ⅻ 上田秋成	木口木版、紙、木版	1983	25.0/41.2×12.3/26.7	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像Ⅻ 上田秋成 右下:83	
柄澤齊	肖像Ⅼ エドガー・アラン・ポー	木口木版、紙	1983	22.0/35.0×6.2/19.2	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像Ⅼ E・A・ポー 右下:83	

作家名	作品名	技法・材質	制作年	寸法 (cm)	署名年記	備考
柄澤齊	肖像XIV ヨハン・セバスティアン・バッハ	木口木版、紙	1983	16.8/35.0×13.0/28.0	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XIV J・S・バッハ 右下:'83	
柄澤齊	肖像XV シャルル・メリヨン	木口木版、紙	1983	18.7/38.0×13.6/28.4	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XV シャルル・メリヨン 右下:'83	
柄澤齊	肖像XVI マティアス・グリュネヴァルト	木口木版、紙	1983	9.9/28.3×16.9/38.0	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XVI マティアス・グリュネヴァルト 右下:'83	
柄澤齊	肖像XVII 天正少年使節	木口木版、紙	1983	7.8/23.0×7.8/19.2	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XVII 天正少年使節 右下:'83	
柄澤齊	花粉(コスモス通信)	木口木版、紙	1984	7.8/22.5×4.3/14.8	左下:花粉 中:H.C. H.Karasawa 右下:'84	
柄澤齊	ALBUM	木口木版、紙、手彩色、 焦げ跡	1984	15.2/27×10.2/19.5	中:1/15 Hitoshi. Karasawa 中下:ALBUM	
柄澤齊	肖像XVIII イジドル・デユカス	木口木版、紙	1984	16.5/29.8×10.4/22.8	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XVIII イジドル・デユカス(ロートレアモン) 右下:'84	
柄澤齊	肖像XIX ハンス・クリスティアン・アンデルセン	木口木版、紙	1984	19.4/38.0×14.6/28.5	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XIX H・C・アンデルセン 右下:'84	
柄澤齊	肖像XX フランシスコ・デ・ゴヤ A	木口木版、紙	1984	21.8/39.8×15.5/30.2	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XX フランシスコ・デ・ゴヤ A 右下:'84	
柄澤齊	肖像XX フランシスコ・デ・ゴヤ B	木口木版、紙、墨	1984	21.8/39.5×15.5/30.0	中:61/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XX フランシスコ・デ・ゴヤ B 右下:'84	
柄澤齊	肖像XXI ハンス・メモリンク	木口木版、紙	1984	10.1/26.5×6.9/19.2	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XXI ハンス・メモリンク 右下:'84	
柄澤齊	肖像XXII バウル・クレー	木口木版、紙	1984	18.5/28.3×6.8/19.1	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XXII バウル・クレー 右下:'84	
柄澤齊	肖像XXIII ルイス・キャロルとアリス・リッデル	木口木版、紙	1984	9.7/25.7×6.4/19.2	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XXIII ルイス・キャロルとアリス・リッデル 右下:'84	
柄澤齊	バッハ・ヘンデル生誕300年記念 切手	木口木版、紙、手彩色、 目打ち穴	1985	3.8/8.6×5.3/10.0	中:1/70 Hitoshi Karasawa	
柄澤齊	盲(めしひ)	木口木版、紙	1985	7.0/16.8×5.0/12.3	中:1/50 H. Karasawa 中下:盲 右下:'85	
柄澤齊	肖像XXIV アルフレート・クービン	木口木版、紙	1985	20.7/38.2×11.8/28.2	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XXIV アルフレッド・クービン 右下:'85	
柄澤齊	肖像XXV ラファエロ・サンツィオ	木口木版、紙	1985	15.4/28.3×18.0/33.1	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XXV ラファエロ・サンツィオ 右下:'85	
柄澤齊	肖像XXVI ジョルジョーネ	木口木版、紙	1985	15.0/28.5×15.0/19.3	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XXVI ジョルジョーネ 右下:'85	
柄澤齊	肖像XXVII オディロン・ルドン	木口木版、紙	1985	21.3/38.2×15.5/28.4	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XXVII オディロン・ルドン	
柄澤齊	肖像XXVIII 李賀	木口木版、紙	1985	7.1/19×5.6/14.4	中:1/70 H. Karasawa 中下:肖像XXVIII 李賀	
柄澤齊	肖像XXIX 亜欧堂田善	木口木版、紙	1985	16.3/34.0×11.0/26.4	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XXIX 亜欧堂田善 右下:'85	
柄澤齊	肖像XXX ミケランジェロ・ブオナローティ	木口木版、紙	1985	21.7/40.0×15.6/30.0	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XXX ミケランジェロ 右下:'85	
柄澤齊	肖像XXXI エゴン・シーレ	木口木版、紙	1985	23.5/37.3×25.0/38.0	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XXXI エゴン・シーレ 右下:'85	
柄澤齊	肖像XXXII テオドル・ジェリコー	木口木版、紙	1985	25.5/38.2×11.0/25.9	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XXXII テオドル・ジェリコー 右下:'85	
柄澤齊	肖像XXXIII ガストン・バシュラール	木口木版、紙	1985	12.1/25.0×8.6/19.2	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XXXIII G・バシュラール 右下:'85	
柄澤齊	肖像XXXIV アルブレヒト・アルトドルファー	木口木版、紙	1985	21.5/32.8×7.1/19.3	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XXXIV A・アルトドルファー 右下:'85	

作家名	作品名	技法・材質	制作年	寸法 (cm)	署名年記	備考
柄澤齊	肖像XXXV 泉鏡花	木口木版、紙	1985	9.5/28.2×15.0/34.7	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XXXV 泉鏡花 右下: '85	
柄澤齊	肖像XXXVI ジュゼッペ・アルチンボルド	木口木版、紙	1985	10.0/25.0×7.0/19.0	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XXXVI G・アルチンボルド 右下: '85	
柄澤齊	路上の人	木口木版、紙	1986	12.5/28.2×5.7/19.2	中:1/70 H.Karasawa 中下:路上の人 右下: '86	
柄澤齊	肖像XXXVII エドワルド・ムンク	木口木版、紙	1986	16.8/28.6×8.9/38.4	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XXXVII エドワルド・ムンク 右下: '86	
柄澤齊	蔵書票	木口木版、紙	1986	11.2/15.3×4.3/9.6	—	
柄澤齊	LAUTE	木口木版、紙	1987	6.5/19.1×5.8/14.6	中:1/50 H.Karasawa 中下:LAUTE '87	
柄澤齊	北園克衛	木口木版、紙	1987	10.0/22.0×7.0/16.5	中:1/35 H.Karasawa 中下:[北園克衛] 右下: '87	
柄澤齊	ジェイムス・ジョイス	木口木版、紙	1987	11.0/25.0×8.0/18.4	中:1/50 H.Karasawa 中下:James Joyce '87	
柄澤齊	一勇斎国芳	木口木版、紙	1989	15.0/25.0×9.0/16.5	中:ép d'artiste H.Karasawa 左下:一勇斎国芳	町田市立国際版画美術館刊
柄澤齊	ルドン	木口木版、紙	1989	15.0/25.2×9.0/16.5	中:ép d'artiste H.Karasawa 左下:Redon '89	町田市立国際版画美術館刊
柄澤齊	柄澤札(メビウスの版)	木口木版、紙	1992	7.2/7.2×13.5/13.5	右下:Hitoshi. Karasawa	裏面あり
柄澤齊	母岩(メビウスの版)	木口木版、紙	1992	16.4/31.4×10.4/23.2	右下:Hitoshi Karasawa '92	
柄澤齊	1992年12月1日のメニュー (メビウスの版)	木口木版、紙	1992	17.8/21.5×26.2/29.5	右下:1/20 Hitoshi Karasawa	
柄澤齊	ミドリヒウモン (メビウスの版)	鱗翅・ドローイング	1992	40.0×31.3×3.0	アクリル 函 中:[メビウスの版]挿画3 ミドリヒウモン (鱗翅版+ドローイング) 1992	
柄澤齊	水駅	コラージュ、墨、紙	1992	30.1/40.6×19.6/29.4	中:水駅 Hitoshi Karasawa 1992	
柄澤齊	百物語 (メビウスの版)	墨流し染め雁皮、 木口木版、紙	1993	22.0/35.2×8.7/21.0	左下:百物語 中:1/10 Hitoshi Karasawa 右下: '93	
柄澤齊	肖像XXXVIII ペーテル・ブリューゲル	木口木版、紙	1993	25.5/42.6×15.9/31.6	中:1/70 Hitoshi Karasawa 中下:肖像XXXVIII ペーテル・ブリューゲル 右下: '93	
柄澤齊	肖像XXXIX 葛飾北斎	木口木版、紙	1993	12.6/28.2×17.6/32.5	中:1/70 Hitoshi Karasawa '93 左下:肖像XXXIX 葛飾北斎	
柄澤齊	蝕 (メビウスの版)	写真、ドローイング	1993	47.4×38.2×3.0	アクリル 函 中:蝕 Hitoshi Karasawa 右下:1993	
柄澤齊	Initiation (メビウスの版)	木口木版、紙	1994	16.4×12.6	—	
柄澤齊	Baudelaire	木口凹版、紙	1994	9.8/28.8×7.4/19.0	中:1/30 Baudelaire 1994 Hitoshi Karasawa	
柄澤齊	COMET	木口凹版、紙	1995	5.2/19.2×9.4/25.0	中:H.Karasawa 1/50 左下:COMET 右下: '95	
柄澤齊	PLANET	木口凹版、紙	1995	5.2/19.2×9.4/25.9	中:H.Karasawa 1/50 左下:PLANET 右下: '95	
柄澤齊	Shell 1	木口凹版、紙、手彩色	1996	3.0/17.1×3.5/15.0	中:H.Karasawa 1/50 左下:Shell I 右下: '96	
柄澤齊	Shell 2	木口凹版、紙、手彩色	1996	3.5/17.5×3.0/14.8	中:H.Karasawa 1/50 左下:Shell II 右下: '96	
柄澤齊	鯉	木口木版、紙	1997	25.5/38.8×20.3/31.5	画面内左:齊[印] 艾 左下:鯉 一九九七 艸部七十ノ内 艾	
柄澤齊	夢為胡蝶	木口木版、紙	1997	18.0/28.0×14.1/23.2	画面内右:齊[印] 艾 左下:夢為胡蝶 一九九七 艸部七十ノ内 艾	
柄澤齊	肖像XL 寒山拾得	木口木版、紙	1997	35.2/50.0×31.8/44.3	左:肖像XL 寒山拾得 一九九七 艸部七十ノ内 艾 左画面内:[印] 艾 右画面内:齊[印]	
柄澤齊	肖像XLI グレン・ゲールド	木口木版(鏡貼り)、紙	1998	45.7/65.6×23.2/43.2	左:肖像XLI グレン・ゲールド 艾 Karasawa[印] 右下: '98	
柄澤齊	SY	木口凹版、紙、手彩色	1998	7.0/25.3×4.5/15.0	中下:H.Karasawa 1998 艾	

作家名	作品名	技法・材質	制作年	寸法 (cm)	署名年記	備考
柄澤齊	ディオニソス	木口凹版、紙、手彩色	1999	15.0/31.3×7.5/24.7	左下：ディオニソス 中：艾・Karasawa 齊 右下：'98	
版画集						
柄澤齊	版画集『Translatio』 (10点組)	木口木版、紙(雁皮紙、 アルシュ紙貼)、手彩色	1974	10.0×10.0	扉：Hitoshi Karasawa	10/35 私版
柄澤齊	版画集『燭罪領く七つの大罪 による』(15点+装画1点組)	木口木版、紙(雁皮紙、 アルシュ紙貼り)	1975	38.1×28.2		8/55 序文：出口裕弘 シロタ画廊刊
柄澤齊	版画集『転身譚』 (10点組)	木口木版、紙(雁皮紙、 アルシュ紙貼り)	1977	21.0×19.0		33/70 シロタ画廊刊
柄澤齊	版画集『古生代の夢』 (6点組)	木口木版、紙	1977	26.5×17.3		10/20 摺：山本進 アート・ライフ刊
柄澤齊	版画集『素粒誌——7つの掌 品のために——』(7点組)	木口木版、紙(雁皮紙、 アルシュ紙貼り)、手彩色	1978	13.3×8.3		10/35 シロタ画廊刊
柄澤齊	版画集『鬼火』 (6点組)	木口木版、手彩色	1980	12.6×8.9		6/9 私版『鬼火Ⅰ、 Ⅱ』の原版から型取り した練りゴム版
柄澤齊	譚画集『迷宮の潭』 (10点組)	木口木版、紙(雁皮紙、 B.F.K.紙貼り)	1981	43.0×32.3	奥付：柄澤齊 出口裕弘	1/70 E.P.7部 譚：出口裕弘 シロタ 画廊刊
柄澤齊	版画集『掌宇宙Ⅰ 仮面』 (10点組)	木口木版、紙、手彩色	1982	11.4×8.0		1/70 シロタ画廊刊
柄澤齊	版画集『掌宇宙Ⅱ 十二宮』 (12点組)	木口木版、紙、手彩色	1982	11.5×8.1		1/70 シロタ画廊刊
柄澤齊	版画集『掌宇宙Ⅲ 玩具』 (5点組)	木口木版、紙、手彩色、 糸、ビス	1983	11.4×8.0		1/70 シロタ画廊刊
柄澤齊	版画集『死と変容』 第Ⅰ集 夜 (22点組)	木口木版、紙、箔押し	1986-88	45.4×37.0		1/22 私版
柄澤齊	版画集『死と変容』 第Ⅱ集 洪水 (22点組)	木口木版、紙	1989-90	45.4×37.0		1/22 私版
柄澤齊	版画集『A1-Chimija——8枚 の木口木版のための8つ鍊金 術的寓意』：第2版(8点組)	木口木版、紙	1991	30.0×22.0		1/30 私版 第1版 (1972年)
柄澤齊	版画集『星殻集』：第2版1973- 1974 (10点組)	木口木版、紙	1991	35.0×28.0		1/30 梓丁室刊 第1版(1973-1974)
柄澤齊	版画集『SIGNUM』 (16点組)	木口木版、紙	1993-94 /1995	28.3×19.0		1/35 『堀田善衛全集』 16巻に付された木口 木版装画と扉挿画の 16点より構成 梓丁室刊(1995年)
柄澤齊	版画集『Nine Nuts』 (9点組)	木口木版、紙	1994	24.0×22.8		1/99 梓丁室刊
柄澤齊	版画集『Nine Nuts』 (9点組)	木口木版、紙	1994	24.0×22.8		1/99 梓丁室刊
柄澤齊	版画集『方丈記』 (16点組)	木口凹版、紙	1994	38.5×57.5		1/50 鴨長明『方丈記』 による 梓丁室刊
柄澤齊	版画集『ZIPANGU』 (版画10点+装画1点組)	木口木版、紙	1999	30.0×26.0		絹/ed.55 梓丁室刊
柄澤齊	版画集『動物誌』 (12点組)	木口木版、紙	2000	16.3×20.0		岫/ed.50 梓丁室刊
柄澤齊	版画集『傾草紙』 (版画15点+装画1点組)	木口木版、紙(インク、水 彩による手染め紙を含 む)	2001	31.0×24.0		綾/ed.50 梓丁室刊
書籍・冊子						
柄澤齊、 岡田隆彦	詩画集『植物の睡眠』 (版画10点+詩・挿画14点組)	木口木版、木口凹版、 紙(一版多色刷を含む)	1996	39.0×35.0		1/40 番外8部 詩： 岡田隆彦 版画・挿 画：柄澤齊 梓丁室刊
版画集						
栗田政裕	版画集『幻想紀行Ⅰ 欧州編』 (11点組)	木口木版、 紙(雁皮紙、BFK紙貼)	1982	21.5×16.1		12/70
栗田政裕	版画集『街燈夜想』 (3点組)	木口木版、紙	1984	23.2×28.3		36/70 テキスト：栗田政裕 夢工房刊
栗田政裕	版画集『街燈夜想Ⅱ』 駅 (4点組)	木口木版、紙	1987	23.0×28.3		5/70 夢工房刊
栗田政裕	版画集『街燈夜想Ⅲ』 港 (4点組)	木口木版、紙	1988	23.0×28.0	—	16/80 序文：栗田政 裕「私にとつての木口 木版」夢工房刊
栗田政裕	版画集『黄昏鉄道の夜』 (4点組)	木口木版、紙	2004	28.4×38.2	—	ボックスウッドクリエー ション刊

作家名	作品名	技法・材質	制作年	寸法 (cm)	署名年記	備考
版画						
坂東壮一	四季 春	エッチング、紙	1980	36.5/54.2×22.7/38.1	中:21/30 S.Bando 中下:四季・春	
坂東壮一	四季 夏	エッチング、紙	1980	36.4/54.2×22.5/37.9	中:29/30 S.Bando 中下:四季・夏	
坂東壮一	四季 秋	エッチング、紙	1980	36.4/54.5×22.7/38.5	中:épreuve d'artiste S.Bando 中下:四季・秋	
坂東壮一	四季 冬	エッチング、紙	1980	36.0/54.2×21.9/38.0	中:15/30 S.Bando 中下:四季 冬	
版画集						
坂東壮一	版画集『薔薇の秘法』 (10点組+表紙1点)	エッチング、紙	1977	21.5×15.2		6/100 シロタ画廊刊
坂東壮一	版画集『夢の罫』 (10点組+扉絵1点)	銅版、紙(アルシュ紙)	1980	39.5×29.0		46/50 シロタ画廊刊
版画						
浜田知明	刑場 B	エッチング、アクアチント、 紙	1954	22.8/42.6×11.4/30.8	中:28/50 Chimei H.	
浜田知明	仮標	エッチング、アクアチント、 紙	1954	19.5/38.1×12.0/28.4	中:22/35 Chimei H.	
浜田知明	副校長D氏像	エッチング、紙	1956	21.6/38.4×16.8/31.5	中:15/50 Chimei H.	
浜田知明	月夜	エッチング、アクアチント、 紙	1977	25.6/47.2×27.0/40.7	中:13/50 Chimei H.	
浜田知明	だめな奴	エッチング、アクアチント、 紙	1979	24.8/42.0×16.8/31.5	中:21/50 Chimei H.	
版画集						
浜田知明	版画集『わたくしのヨーロッパ 印象記』(10点組)	エッチング、アクアチント、 紙	1970	44.8×34.5		37/50 テクスト:土方 定一「浜田知明論=アル グスの目をもつ魂の 歌」 摺:版画工房 KEN 山村素夫 大 阪フォルム画廊刊 (1971年)
浜田知明	版画集『見える人』 (8点組)	エッチング、紙	1975	45.0×37.5		テクスト:滝口修造「線 人抄」 摺:版画工房 KEN 山村素夫 山 村常夫 大阪フォルム 画廊刊
木原康行	版画集『Conséquence』 (11点組)	エングレービング、ヴェラン、 紙(アルシュ紙)(1版多色 刷)	1980	44.8×38.3		序文:中原佑介 摺: 山村兄弟 ギャラリー 上田刊
木原康行	版画集『Concentration』 (5点組)	エングレービング、紙	1984	60.0×46.0		土(金・紫)版 摺:山 村兄弟 ギャラリー上 田刊
版画						
小林敬生	『蘇生の刻』 バベル	木口木版、紙	1988	67.0/87.0×29.9/49.7	中:3/50 蘇生の刻 ―バベル― KeiSei Kobayashi '88	
小林敬生	『蘇生の刻』 讃歌	木口木版、紙	1988	67.0/87.0×29.9/49.7	中:3/50 蘇生の刻 ―讃歌― KeiSei Kobayashi '88	
版画集						
小林敬生	版画集『午前3時の無言歌』 (10点組)	木口木版、紙	1979	21.0×19.0		17/50 シロタ画廊刊
黒崎彰	版画集『迷彩風景』 (10点組)	木版、紙(越前特漉鳥の 子)	1976	21.0×19.0		20/50 摺:一圓達夫 シロタ画廊刊
長谷川潔	版画集『長谷川潔の肖像』 (10点組)	銅版、紙	1963	33.3×25.0		版画集『PORTRAIT DE KIYOSHI HASE- GAWA』 版画:長谷 川潔 テクスト:Robert Rey 序文:Tristan Klingsor MANUEL BRUKER刊
松野真里	版画集『星の園』 (6点組)	銅版、紙	1992	27.0×30.0		版画集『Les Jardins de l'étoile』 テクスト: Marc Layrangues
版画						
梅木英治	夜の騎士	メゾチント、紙	—	35.7/56.1×28.5/39.1	中:1/30 Eiji Umeki 中下:夜の騎士 左下:84'	
梅木英治	甲虫	メゾチント、紙	—	4.8/23.0×4.0/16.2	中:8/50 Eiji Umeki 中下:甲虫	

作家名	作品名	技法・材質	制作年	寸法(cm)	署名年記	備考
モーリッツ・フィリップ	石切り職人の眠り	ビュラン、紙	1973	26.4/37.8×20.5/28.1	中:E/A XI/XIII MOHLITZ 1973	
モーリッツ・フィリップ	占領地	ビュラン、紙	1977	21.6/33.2×28.2/39.5	中:42/100 MOHLITZ 1977	
渡辺幹夫	二人の裸婦40	メゾチント、紙	1987	13.3/29.2×16.1/38.2	中:e.a. deux nus11 mikio 87	
渡辺幹夫	le cou(首)	メゾチント、紙	1987	5.2/25.3×6.8/19.1	中:e.a. le cou mikio 87	
池田満寿夫	サイズはサイズ	銅版、紙	1963	36.3/65.0×33.4/50.3	左:17/20 右:M.Ikeda '63	
梅原龍三郎	座る裸婦	リトグラフ、紙	—	16.1/33×17.6/32.1	中:78/175 R.u_	
斎藤カオル	彩りの髪(そのⅡ)	メゾチント、紙	1976	23.4/39.8×17.5/32.0	中:44/50 KaoRu.S 中下:彩りの髪(そのⅡ)'76 右下:[KEN・TOKYO]	
佐藤暢男	ならんださくらんぼ(2)	メゾチント、紙	1981	19.5/33.6×35.6/49.8	中:22/100 右:Nobuo Satou'81 中下:ならんださくらんぼ(2)	
日和崎尊夫	海淵の薔薇	木口木版、紙	1972	9.8/34.1×10.7/24.4	中:21/50 '72 海淵の薔薇1 Takao Hiwasaki	
ゴヤ・イ・ルシ エンテス、フランシスコ	戦争の惨禍(36) 《これもまた》	エッチング、アクアティント、 ドライポイント、ビュラン、 バーニッシャー、紙	1810-20	14.0/30.5×19.8/29.5	中:36 Fampoco	
ルドン、 オディロン	私は空に精霊の様なものをみた 〔聖アントワヌの誘惑〕第3集)	リトグラフ、紙	1888	26.1/43.7×18.2/33.1	裏面左下:mellerio154	
タマヨ、 ルフィーノ	夜曲	エッチング、紙	1976	55.4/56.0×73.8/74.5	—	44/75
デュビュッフェ、 ジャン	壁に小便をする犬 (ウージェーヌ・ギルヴィク『壁』 から)	リトグラフ、紙	1945	37.9/37.9×27.8/56.2	—	〔Les murs〕 170部 うち番号不明 テクスト: Eugène Guillevic 版画: Dubuffet Les Editions du Livre刊 (1950年)
ピカソ、パブロ	No.139 (シリーズ〈347〉のうち)	エッチング、アクアチント、 紙	1968	22.1/34.6×29.0/42.2	左:h.139 42/50 中:1500 右:Picasso #3441	
版画集						
岡田露愁	版画集『魔笛』	木版、紙	1981	63.0×52.6		湯川書房刊
ルオー、 ジョルジュ	版画集『伝説的風景』 (版画6点+挿図50点組)	リトグラフ、紙	1929	33.4×25.0×2.0		〔Paysages Légendaires〕 104/150 詩・ 版画・挿図:ジョルジュ・ ルオー Edition Portret刊
書籍・冊子						
ジャン＝ポール ＝サルトル、 ヴォルス	VISAGE	ドライポイント、紙	1947	19.4×12.7		〔Visages précédé de portraits officiels〕 170/900 テクスト: Jean-Paul Sartre 版画: Wols(4点) Pierre Seghers刊 (1948年 初版)
城所祥、 柄澤齊、 日和崎尊夫 ほか	詩画集『水夢譚』	木口木版、紙	1977	22.5×15.5	別紙に制作者10名の署名	30/50 「室内にいて」 詩:三好豊一郎、版:城 所祥 「黒髪」詩:鶴岡 善久、版:柄澤齊 「航海」 詩:西一知、版:日 和崎尊夫 「三つの断 章」詩:沢沢孝輔、版: 山本進 「無花果」詩: 窪田般彌、版:栗田政 裕 沖積舎刊
柄澤齊、 高柳誠ほか	『容器』Ⅰ	木口木版、紙	1984	26.5×18.5		33/100 詩:高柳誠、 時里二郎 版画:柄澤 齊「鍵」高柳誠のための モノグラム」「一つの 風景」 湯川書房
柄澤齊、 北川健次ほか	『容器』Ⅱ	リトグラフ、紙(鳥の子紙、 アルシュ紙貼り込み)	1985	19.0×18.5		31/100 革装 詩:高 柳誠、時里二郎 詩・ 版画:北川健次「群衆」 「寺院」装丁・版画: 柄澤齊「鳥」「劇場」 湯川書房
柄澤齊、 北川健次ほか	『容器』Ⅲ	木口木版、紙	1987	22.8×28.7		31/100 4分冊:時里 二郎「植物譜」、高柳 誠「誌葉集」、柄澤齊 「CAPRICORNUS」、 北川健次「暗箱の中の 自画像」 湯川書房

作家名	作品名	技法・材質	制作年	寸法 (cm)	署名年記	備考
鑿の会	『鑿』創刊号	木口木版、紙	1979	27.0×19.4×2.8		詩画集『鑿』 58/100 版画 (22点): 柄澤齊、日和崎尊夫、栗田政裕、山本進、城所祥 文: 菅野仁、城所祥 形象ギャラリー刊
鑿の会	『鑿』Ⅱ号	木口木版、紙	1980	27.0×19.4×2.8		『鑿』 58/100 版画 (22点): 柄澤齊、日和崎尊夫、栗田政裕、山本進、城所祥 文: 三好豊一郎、城所祥 形象ギャラリー刊
鑿の会	『鑿』Ⅲ号	木口木版、紙	1981	27.0×19.4×2.8		『鑿』 58/100 版画 (23点): 柄澤齊、日和崎尊夫、栗田政裕、山本進、城所祥 文: 種村季弘、城所祥ほか 形象ギャラリー刊
鑿の会	『鑿』Ⅳ号	木口木版、紙	1982	37.0×26.5×3.3		『鑿』 58/100 版画 (22点): 柄澤齊、日和崎尊夫、栗田政裕、山本進、城所祥 文: 菅野仁、城所祥 形象ギャラリー刊
鑿の会	『鑿』Ⅴ号	木口木版、紙	1983	37.0×26.5×3.3		『鑿』 58/100 版画 (22点): 柄澤齊、日和崎尊夫、栗田政裕、山本進、城所祥 文: 菅野仁、城所祥 形象ギャラリー刊
モーリッツ、 フィリップ	<i>Mohlitz: Werkverzeichnis der Kupferstiche/œuvre-catalogue of the copper-engravings 1965-1976</i>		1977	24.0×22.0×1.0		Michael S. Sachs刊
柄澤齊	『銀河の棺』		1994	22.0×15.6×2.0		小沢書店
ルドン、オディロン、 監修: 土方 定一ほか	『世界連作版画シリーズ 聖アントワスの誘惑』		1981	42.3×36.0×2.7		形象社
浜田知明	『浜田知明 銅版画作品集』		1972	35.0×26.5×2.7		エッチング1点、54/100 美術出版社
長谷川潔、編 著: 魚津章夫	『長谷川潔の全版画』		1999	31.0×25.0×4.7		木版画1点 173/550 玲風書房
有元利夫	『有元利夫作品集』		1981	40.0×32.5×4.3		リトグラフ2点、242/270 美術出版社
編: 平尾佐矢子ほか	「ピカソ愛とエロチズム」展図録		1997-1998	—		主催: 読売新聞社ほか 会場: 川村記念美術館ほか
	『版画藝術』No.56、76-83		1987、1992-1994	—		阿部出版
〈吉村洋子氏寄贈〉						
素描・水彩画など						
吉村弘	3つの森のイヴェント: three Forest Ivent	インク、フェルトペン、鉛筆、紙	1968	25.0×17.8	1968.9.27	パフォーマンスの指示書
吉村弘	Paper Music	鉛筆、紙	1969	29.1×20.6	June 19 1969	パフォーマンスの指示書
吉村弘	3つのアジサイ	鉛筆、色鉛筆、紙	1970	25.6×17.9	1969・4・26	パフォーマンスの指示書
吉村弘	CROSSING CLOUDS	鉛筆、紙	1970	13.9×19.3		アイデアスケッチ
吉村弘	CROSSING CLOUDS D-N-M for many players	鉛筆、紙	1970	27.0×38.0	20th Oct 1970 Hiroshi Yoshimura	パフォーマンスの指示書2枚組 裏面メモあり
吉村弘	「アルジェン&マルガレート・デ・フロート夫妻宛書簡」	ペン、紙	1970	各35.4×25.6	12th 12 1970	3枚組
吉村弘	Plan of PIPE INVENTION for Recorder	鉛筆、紙	1970頃	38.3×27.0		
吉村弘	雲	インク、トレーシングペーパー、紙	1970頃	33.0×28.2		印刷用原稿
吉村弘	波	インク、トレーシングペーパー、紙	1970頃	33.0×28.2		台紙貼り
吉村弘	「自転車に乗る少女」	油性インク、紙	1970年代初め	38.7×20.7		

作家名	作品名	技法・材質	制作年	寸法 (cm)	署名年記	備考
吉村弘	「自転車に乗ってあいさつする二人」	油性インク、紙	1970年代初め	38.6×32.9		
吉村弘	ALM RECORDS (コジマ録音)	ペン、紙	1970年代初め	21.2×30.4		封筒のための原画
吉村弘	CROSSING CLOUDS FROM TOKYO	水彩、鉛筆、紙	1971	25.6×35.2	1971 BY HIROSHI YOSHIMURA	
吉村弘	CROSSING CLOUDS FROM TOKYO	水彩、鉛筆、紙	1971	25.6×35.2	1971 BY HIROSHI YOSHIMURA	
吉村弘	White Space '73 Let it be green!	インク、水彩、紙	1973	14.8×10.0		ポストカード
吉村弘	a happy new year 1975 hiroshi&yoko	シルクスクリーン、ペン、紙	1975	14.8×10.0		ポストカード
吉村弘	SCENIC EVENT SUGAR TRIP 台紙	インスタント・レタリング、紙	1977	18.0×16.0		2枚あり
吉村弘	WINTER SOLSTICE// CLOUDS FOR ALMA	印刷、インスタント・レタリング、コラージュ、紙	1977	10.1×15.0		ポストカード 裏面: 《CLOUDS FOR ALMA》
吉村弘	PO・ND POETRY SOUND BY AQUA	インク、鉛筆、紙	1981	35.0×48.5		《サウンド・チューブ》設計図 コピーあり
吉村弘	《サウンド・チューブ》使用説明書	インク、紙	1981頃	35.5×25.5		
吉村弘	WIND CHIME	鉛筆、紙	1982	10.0×15.0	1982 H.Y	ポストカード
吉村弘	A HAPPY NEW YEAR	インク、紙	1982	8.8×49.9		グリーティングカード、二つ折
吉村弘	SOUND FENCE	鉛筆、紙	1982	10.0×15.0		ポストカード
吉村弘	SOUND WOOD (STEEL PIPE)	鉛筆、紙	1982	10.0×15.0		ポストカード
吉村弘	FRAME	ペン、鉛筆、紙	1983	18.8×35.8		パフォーマンス指示書
吉村弘	無題「パフォーマンス指示書」	インク、紙	1983	各35.8×25.2		3枚組パフォーマンス指示書①エアー・ウェーブ ②ビデオ・フォール ③サウンド・エンバイラメント ④レーザー・チェイス
吉村弘	サウンド・スカルプチャー	インク、紙	1984	36.0×21.0	hiroshi	
吉村弘	サウンド・スカルプチャー	インク、茶紙	1984頃	38.8×21.0		
吉村弘	不詳	ペン、紙	1996	10.0×14.8		ポストカードのためのデッサン
吉村弘	I dreamed I could fly	鉛筆、紙	1996	10.0×14.8	Hiroshi Yoshimura 1996	ポストカードのためのデッサン
吉村弘	I dreamed I could fly	鉛筆、紙	1996	10.0×14.8	Hiroshi Yoshimura	ポストカードのためのデッサン
吉村弘	無題「図形楽譜」1	インク、紙	不詳	25.7×36.4		スケッチブック「ORANGE HOUSE」の表紙をフォルダに利用、天地・左右不明
吉村弘	無題「図形楽譜」2	インク、紙	不詳	25.7×36.4		スケッチブック「ORANGE HOUSE」の表紙をフォルダに利用、天地・左右不明
吉村弘	無題「図形楽譜」3	インク、紙	不詳	25.7×36.4		スケッチブック「ORANGE HOUSE」の表紙をフォルダに利用、天地・左右不明
吉村弘	無題「図形楽譜」4	インク、紙	不詳	25.7×36.4		スケッチブック「ORANGE HOUSE」の表紙をフォルダに利用、天地・左右不明
吉村弘	無題「図形楽譜」	鉛筆、紙	不詳	25.6×18.2		
吉村弘	無題「図形楽譜」1. 雲、2. 鳥、3. 波	インク、インスタント・レタリング、紙	不詳	10.0; 10.0; 10.0/162.4×118.5; 118.5; 118.5/123.5		台紙に3点貼り
吉村弘	無題「図形楽譜」4. 水平線の雲、5. 雲と鳥、6. 五線譜上の波	インク、インスタント・レタリング、紙	不詳	10.0; 10.0; 10.0/162.4×118.5; 118.5; 118.5/123.5		台紙に3点貼り
吉村弘	無題「図形楽譜」7. 星と星座、8. 鳥、9. ダンス、10. ダンス	インク、インスタント・レタリング、紙	不詳	10.0; 10.0; 10.0/162.4×118.5; 118.5; 118.5/123.5		台紙に3点貼り
吉村弘	The Taj Mahal Travellers	ボールペン、ペン、方眼紙	不詳	29.6×21.0		タージマハル旅行団の使用楽器イラスト
吉村弘	無題「パフォーマンス指示書」	鉛筆、紙	不詳	各25.6×各35.6		2枚組やかんを使ったパフォーマンス指示書 (A、B、C)

作家名	作品名	技法・材質	制作年	寸法 (cm)	署名年記	備考
吉村弘	Dance Workshop	ペン、紙	不詳	各25.8×各17.3		ワークショップ指示書、3枚組
吉村弘	7/24 ワークショップ	ペン、鉛筆、色鉛筆、紙	不詳	各25.0×各18.0		ワークショップメモ、4枚組
吉村弘	[火によるドローイング]	火、紙	不詳	14.9×10.6		四つ折りの紙に焦げ穴
吉村弘	[火によるドローイング]	火、紙	不詳	14.9×10.6		四つ折りの紙に焦げ穴
吉村弘	[火によるドローイング]	火、紙	不詳	14.9×10.6		四つ折りの紙に焦げ穴
吉村弘	[火によるドローイング]	火、紙	不詳	14.9×10.6		四つ折りの紙に焦げ穴
吉村弘	[火によるドローイング]	火、紙	不詳	14.9×10.6		四つ折りの紙に焦げ穴
吉村弘	[火によるドローイング]	火、紙	不詳	14.9×10.6		四つ折りの紙に焦げ穴
吉村弘	[音楽記号による構成]	インスタント・レタリング、紙	不詳	10.0/18.2×14.8/25.7		台紙貼り
吉村弘	[音楽記号による構成]	インスタント・レタリング、紙	不詳	10.0/18.2×14.8/25.7		台紙貼り
吉村弘	[音楽記号による構成]	インスタント・レタリング、紙	不詳	10.0/18.2×14.8/25.7		台紙貼り
吉村弘	[音楽記号による構成]	インスタント・レタリング、紙	不詳	10.0/18.2×14.8/25.7		台紙貼り
写真・印刷物						
吉村弘	ALM RECORDS (コジマ録音)	印刷、紙(封筒)	1970年代初め	43.4×35.1		封筒
吉村弘	soft wave 3 for automatic music boy	コンタクト・プリント(ゼラチンシルヴァー・プリント)、印刷、紙	1973	29.8×21.2	右上: April 1st 1973	台紙に写真貼り
吉村弘	〈サウンド・パフォーマンス〉 音の水族館	印刷、紙	1977	10.0×14.7		案内状 出演: 吉村弘、鈴木昭男ほか 天井数館アトリエ
吉村弘	[ポストカード] CLOUDS FOR ALMA	印刷、紙	1977	10.0×15.0		
吉村弘	CROSS OVER PERFORMANCE 78 & OBJECT	印刷、紙	1978	53.6×26.1		チラシ兼ポスター刷り違いあり テキスト: 吉村弘「CLOUD SCENE METALIC TERRITORY」1980年6月「CLOUDS SCENE 001-005」他 出演: ヒグマ春雄、浜田剛爾、風倉匠ほか
吉村弘	CROSS OVER PERFORMANCE 78 & OBJECT	印刷、紙	1978	53.6×26.1		チラシ兼ポスター刷り違いあり「25人のパフォーマーによる行為と認識の12日間」出演: 浜田剛爾、風倉匠、吉村弘、山本峯生、ヨシダ・ヨシエ、渋谷光吉
吉村弘	[ポストカード] GREETING FROM HIROO STATION	印刷、紙	1978	10.0×14.8	June 21 1978/夏至の日を通過する1枚の紙片/やがてくる夏のために	
吉村弘	CROSS OVER PERFORMANCE 78 ASSEMBLY PROGRAM SHEET	複写、紙	1978	29.6×21.0		チラシ1978年5月22日 吉村「CLOUD SCAPE: B.G.M」演奏
吉村弘	Continuous Performance vol.4[人間学への接近No.3]	印刷、紙	1980	29.8×21.0		パンフレット二つ折 1980年7月3日-4日産業貿易センター、神奈川県民ホールほか テキスト: 吉村弘「CLOUD SCENE METALIC TERRITORY」1980年6月「CLOUDS SCENE 001-005」他 出演: ヒグマ春雄、浜田剛爾、風倉匠ほか
吉村弘	[ポストカード] Clouds Scene Music syn-tonized with change in shape and movement of the clouds	印刷、紙	1980	10.0×15.0		2枚あり

作家名	作品名	技法・材質	制作年	寸法 (cm)	署名年記	備考
吉村弘	[ポストカード] Birds Scene Music syn- tonized with change in shape and movement of the birds	印刷、紙	1980	10.0×15.0		2枚あり
吉村弘	[ポストカード] Stopping Scene Music modulated with stopping time	印刷、紙	1980	10.0×15.0		2枚あり
吉村弘	[ポストカード] Fishes Scene Music modulated with change in shape and movement of the shoal	印刷、紙	1980	10.0×15.0		2枚あり
吉村弘	[ポストカード] Wave Scene Music modulated with change in shape and movement of the wave	印刷、紙	1980	10.0×15.0		
吉村弘	[ポストカード] Walking Scene Music syn-tonized with walking speed	印刷、紙	1980	10.0×15.0		
吉村弘	カン楽器図鑑総目録	複写、紙	1981	25.0×17.7		
吉村弘	SOUND TUBE	印刷、紙	1981	20.0×14.3		解説書
吉村弘	音を見つけよう 音、 音楽・子どもの会Vol2	印刷、紙	1982	25.7×18.2		チラシデザイン：吉村弘 Studio200西武池袋 1980年5月15日吉村弘 「音のない音楽—サウ ンドイマジネーションの 世界」ほか演奏
吉村弘、 アルマ・デ・フ ロートデッサン	[ポストカード] Composition by Alma (5 Years Old)	印刷、紙	1982	15.0×9.9	June 28 1982 HOLLAND	
吉村弘	[ポストカード] 2002 PARTENZA 出発	印刷、紙	2002	10.0×14.8		
吉村弘	カン楽器Solo per Scatole	印刷、紙	2002	29.8×21.2		WINDS CAFE(吉祥 寺)でのパフォーマンス 指示書 2002/6/15開催
吉村弘	[ポストカード] STREET MUSIC	印刷、紙	2003	10.0×14.8		
吉村弘	無題[図形楽譜]	複写、紙	2005	29.8×41.9		コピー「五線の中で」 (1999年)で発表した 絵より3種、海と鳥と波 と雲をモチーフとする 絵1種(制作年不詳)
吉村弘	Sometimes press	紙(封筒)	不詳	21.7×31.0		吉村デザインロゴ入り 封筒
麗会	「麗会 第1回創作発表会」 プログラム	印刷、紙	1968	17.9×25.2		1968年5月5日、川崎労 働会館
麗会	「麗会 試演会」 プログラム(改訂版)	印刷、ボールペン、鉛筆、 紙	1969	25.3×35.8		1969年4月27日小杉会 館内スター音楽センター 吉村弘・洋子、マリス・ カンデイス「三つのアジ サイ」に変更し演奏
麗会	「麗会 第5回創作発表会」 プログラム	印刷、紙	1970	21.5×15.5		1970年12月13日豊島区 民センター、吉村「CRO- SSING CLOUD」など 演奏2部あり
麗会	「麗会 試演会」 プログラム	印刷、紙	1970	21.6×15.4		1970年5月17日東急文 化会館、吉村「AIR AREA」演奏
麗会	「麗会 試演会」 プログラム	印刷、インク、鉛筆	1970	21.6×15.4		1970年5月17日東急文 化会館、吉村「AIR AREA」演奏
マックス、 ニューハウス	MAX NEUHAUS—UNDER GROUND MUSIC(S)	印刷、紙	不詳	45.9×60.9		ポスター
版画						
吉村弘	SCENIC EVENT SUGAR TRIP (1977.1.3)	複写、紙	1977	18.0×16.0	1977 Jan. 3	4枚あり
吉村弘	SCENIC EVENT SUGAR TRIP (1977.1.6)	複写、紙	1977	18.0×16.0	1977 Jan. 6	4枚あり
吉村弘	SCENIC EVENT SUGAR TRIP (1977.1.15)	複写、紙	1977	18.0×16.0	1977 Jan. 15	3枚あり

作家名	作品名	技法・材質	制作年	寸法 (cm)	署名年記	備考
吉村弘	SCENIC EVENT SUGAR TRIP (1977.1.19)	複写、紙	1977	18.0×16.0	1977 Jan. 19	3枚あり
吉村弘	SCENIC EVENT SUGAR TRIP (1977.1.22)	複写、紙	1977	18.0×16.0	1977 Jan. 22	3枚あり
吉村弘	SCENIC EVENT SUGAR TRIP	複写、紙	1977	18.0×16.0	1977 Jan.	3枚あり
吉村弘	〔ポストカード〕'80	シルクスクリーン、紙、ペン、色鉛筆	1980	10.0×14.8		
吉村弘	〔ポストカード〕MUSIC FOR EGGS 1981	シルクスクリーン、紙	1981	10.0×14.9		
吉村弘	〔ポストカード〕1982	シルクスクリーン、紙	1982	10.0×15.1		
吉村弘	〔ポストカード〕1982	シルクスクリーン、紙	1982	10.0×14.8		
吉村弘	〔ポストカード〕1984 (A HA) PPY N(E)W Y (EA)R	シルクスクリーン、紙	1983	10.0×15.1		
吉村弘	〔ポストカード〕1985	シルクスクリーン、紙	1985	10.0×15.1		
吉村弘	〔ポストカード〕1986.1.1	シルクスクリーン、紙	1986	10.0×15.0		
吉村弘	〔ポストカード〕1987	シルクスクリーン、紙	1987	10.1×14.7		
吉村弘	〔ポストカード〕Music Planet 1990	シルクスクリーン、紙	1990	10.0×15.0		
吉村弘	〔ポストカード〕2000	シルクスクリーン、紙	1999	10.0×14.8		
吉村弘	〔ポストカード〕Nuvola 2001.1.1	シルクスクリーン、紙	2000	10.0×14.8		
吉村弘	〔ポストカード〕16HA HAPPY 1NEW YEAR	ステンシル、紙	不詳	10.0×14.8		
書籍・冊子						
朝食の会	『朝食』第4～15号	印刷、紙	1965-67	24.5×17.5×0.2		編：北条篤史、原鴻一郎、吉村弘、4号以降、吉村宅が「朝食の会」事務所となる
朝食の会	『朝食』第16号	印刷、紙	1967	24.5×17.5×0.2		未刊(吉村弘による手製本)特集：吉村弘
麗会	『FUNANDO』I～V	印刷、紙	1969-70	21.8×15.8×1.0～3.5		編：沢碧、境一清、影島直
吉村弘、マリス・カンデイス、ナカジマ シゲオ	TITLE	複写、紙	1970年頃	21.8×15.8×0.5		ホチキスとめ54ページ表紙はずれ
吉村弘	木	糸、紙、謄写板	1970年頃	19.2×27.3×0.2		コンクリートボエムの本
吉村弘	LITTLE WAVE FROM TOKYO 1971 FLIPBOOK	切り抜き、色鉛筆、インスタント・レタリング、紙	1971	21.0×15.2×2.1	扉裏：hiroshi yoshimura	無地の紙を切り抜いて綴じたフリップブック
吉村弘	point wave distribution chart of waves from whole the world	フォルダ、コピー複写、鉛筆、ファイル、封筒、ペン、写真のコラージュ、ボールペン、インク、色鉛筆、クレヨン、スタンプ、紙を焦がしたものの、水彩、サインペン、切手・印刷物のコラージュ、ビニール	1974-1999	30.7×24.0×3.7		ビニール・リフィルに入れた手紙、原稿類をまとめたファイルリフィル分144点、バラ17点
吉村弘	CONCERT ON PAPER HIRO-O STATION	複写、紙	1975	25.8×36.6×0.9		手製コピー本81ページ
吉村弘	『JAPANESE SCHMUCK』春号(第8号)	印刷、紙	1976	29.2×20.5×0.7		発行：Beau Geste Press 吉村弘〈Vista〉〈Sound Earth〉〈Distance〉他所収
吉村弘、浜田剛爾	『continuous PERFORMANCE』第1号	複写、紙	1977	41.0×28.0		デザイン・編集・発行：sometimes press 1977年12月 無綴じ12ページ 吉村弘〈SCENIC EVENT：SUGARTRIP〉所収
吉村弘	『AQUA VISTA』	複写、紙	1977	25.8×36.5×0.4		発行：sometimes press 24ページ1/1
吉村弘	『HIROO STATION 35° 39'N-139° 42'E』	複写、紙	1978	25.9×36.6×0.4		発行：sometimes press 1978年7月7日 24ページ
吉村弘	VIEW FROM MY WINDOW	印刷、鉛筆、トレーシングペーパー	1978	10.0×15.1×0.4		ポストカード(6枚組、無綴じ)、うち1点2枚あり
吉村弘	PO・ND サウンド・カン	複写、紙	1981	25.7×18.2		解説4枚組ホチキス留め

作家名	作品名	技法・材質	制作年	寸法 (cm)	署名年記	備考
吉村弘	SOUND SCULPTURE	複写、紙	1981	25.7×18.2		13ページホチキス留め
彫刻・インスタレーション						
吉村弘	サウンド・チューブ	鉄、水、塗料	1981年	30.0×7.0×7.0		
吉村弘	サウンド・チューブ	鉄、水、塗料	1981年	30.0×7.0×7.0		
吉村弘	SOUND PLANET	銅、真鍮、鉄、ステンレスワイヤー、アルミ、	1990	188.0; 139.0; 133.5× 60.0; 60.0; 60.0× 60.0; 60.0; 60.0	—	
吉村弘	雲のモビール	紙、手ぐす	1999	19×53.5	—	寸法可変
吉村弘	雲のモビール	紙、手ぐす、ピアノ線	1999	22.5; 20.0; 38.5× 66.5; 54.0; 16.5	—	寸法可変
吉村弘	スピーカー	ステレンボード、紙、スピーカー	2001	42.0×59.4×3.0	—	吉村弘による楽譜図を正面に貼ったパネルスピーカー (ジーベックスピーカ XPP-01) スタンドあり
吉村弘	スピーカー	ステレンボード、紙、スピーカー	2001	42.0×59.4×3.0	—	以下同
吉村弘	スピーカー	ステレンボード、紙、スピーカー	2001	42.0×59.4×3.0	—	以下同
吉村弘	スピーカー	ステレンボード、紙、スピーカー	2001	42.0×59.4×3.0	—	以下同
吉村弘	スピーカー	ステレンボード、紙、スピーカー	2001	42.0×59.4×3.0	—	以下同
吉村弘	スピーカー	ステレンボード、紙、スピーカー	2001	42.0×59.4×3.0	—	以下同
吉村弘	ミ/ズ/ナ/リ	木、アクリル、スピーカー、アンプ、オーディオプレーヤー	1991/ 2005	80.0×90.0×77.0	—	〔日黒区美術館で発表した作品(1991年)にもとづく渡辺林太郎による再制作〕
吉村弘	CLOUDS SCENE	針金、手ぐす、ウレタンボード、塗料、紙、(監視カメラ、モニター、アンプ、スピーカー)	1999/ 2005	43.0; 43.0; 39.0; 39.0; 32.2; 32.2× 128.0; 128.0; 104.0; 104.0; 74.5; 74.5× 0.5; 0.5; 0.5; 0.5; 0.5	—	〔吉村弘による紙製のモビール(1999年)にもとづく、渡辺林太郎・伊藤信明による再制作〕可変最大幅約4000cm
その他						
吉村弘	TWELVE POINTS (1)～(27)	植物、紙、パンチング	1987頃	10.1×15.1		パンチングした木の葉を手製封筒に入れたもの
吉村弘	LETTER GARDEN (1)～(9)	植物、紙	1987頃	12.0×23.5		
吉村弘	SOUND LETTER: WAVE (1)～(4)	印刷、ビーズ、紙、トレーシングペーパー	1987	10.0×15.0		
吉村弘	SOUND LETTER (1)～(4)	印刷、ビーズ、インク、紙	1988	10.0×15.1		
吉村弘	[ポストカード] Massimo Zanasi 宛	インク、紙、ラミネート	2000	11.0×15.4		ポストカード 赤と緑の丸をラミネートではさんだもの
吉村弘	[ポストカード] COMPACT disc POST CARD 矢内みどり宛	CD、紙	2000	12.0×12.0		ポストカードCD型

〈鷺見和紀郎氏寄贈〉

油彩・アクリル画など

鷺見和紀郎	FAR CRY-2	油性インク、張り子紙	1995	25.5×20.5	裏面中下: 1995 SUMI WAKIRO FAR CRY-2
鷺見和紀郎	FAR CRY-3	油性インク、張り子紙	1995	25.0×20.7	裏面中央: 1995 SUMI WAKIRO FAR CRY-3
鷺見和紀郎	FAR CRY-6	グアッシュ、油性インク、張り子紙	1995	25.0×20.4	裏面左下: FAR CRY-6、 裏面右下: 1995 SUMI WAKIRO
鷺見和紀郎	FAR CRY-7	油性インク、張り子紙	1995	25.0×20.3	裏面中下: 1995 SUMI WAKIRO FAR CRY-7
鷺見和紀郎	FAR CRY-9	グアッシュ、油性インク、張り子紙	1995	24.6×20.8	裏面中下: 1995 SUMI WAKIRO FAR CRY-9
鷺見和紀郎	FAR CRY-11	グアッシュ、油性インク、鉛筆、張り子紙	1995	25.3×20.5	裏面中下: 1995 SUMI WAKIRO FAR CRY-11
鷺見和紀郎	FAR CRY-12	油性インク、張り子紙	1995	26.0×20.3	裏面中下: 1995 SUMI WAKIRO FAR CRY-12

作家名	作品名	技法・材質	制作年	寸法 (cm)	署名年記	備考
鷺見和紀郎	FAR CRY-13	油性インク、コンテ、張り子紙	1995	26.0×20.8	裏面中央：1995 SUMI WAKIRO FAR CRY-13	
鷺見和紀郎	FAR CRY-14	グアッシュ、油性インク、張り子紙	1995	25.0×20.3	裏面中央：1995 SUMI WAKIRO FAR CRY-14	
鷺見和紀郎	FAR CRY-15	グアッシュ、油性インク、張り子紙	1995	25.5×20.4	裏面中央：1995 SUMI WAKIRO FAR CRY-15	
鷺見和紀郎	FAR CRY-17	油性インク、コンテ、張り子紙	1995	25.0×20.5	裏面中央：1995 SUMI WAKIRO FAR CRY-17	
鷺見和紀郎	FAR CRY-18	油性インク、コンテ、張り子紙	1995	25.0×20.0	裏面中央：1995 SUMI WAKIRO FAR CRY-18	
鷺見和紀郎	FAR CRY-19	グアッシュ、油性インク、張り子紙	1995	25.3×20.8	裏面中央：1995 SUMI WAKIRO FAR CRY-19	
鷺見和紀郎	FAR CRY-20	油性インク、コンテ、張り子紙	1995	20.8×25.0	裏面中央：1995 SUMI WAKIRO FAR CRY-20	

〈大河内美喜子氏寄贈〉

油彩・アクリル画など

大河内信敬	自画像	油彩、カンヴァス	1921	41.0×32.3	左下：敬	
大河内信敬	風景	油彩、厚紙	不詳	26.7×35.0	—	
大河内信敬	静物	油彩、カンヴァス	1949～ 1950頃	72.3×90.0	—	

〈坂口寛敏氏寄贈〉

油彩・アクリル画など

坂口寛敏	暖かいイメージのために 95-1	アクリル絵具、チョーク、樹脂、グラファイト、カンヴァス	1995	180.0×160.0	—	
坂口寛敏	暖かいイメージのために 95-2	アクリル絵具、チョーク、樹脂、グラファイト、カンヴァス	1995	180.0×160.0	—	
坂口寛敏	暖かいイメージのために 95-3	アクリル絵具、チョーク、樹脂、グラファイト、カンヴァス	1995	180.0×160.0	—	

〈柄澤齊氏寄贈〉

彫刻・インスタレーション

柄澤齊	Trans	木、墨、箔、アクリル絵具、和紙、パネル	2004	124.0×501.0	—	
-----	-------	---------------------	------	-------------	---	--

書籍・冊子

柄澤齊	『 Rond 』特装本		2003	19.2×13.3	—	木口凹版2点、木口木版4点入り 羊皮紙によるカバー装、装丁：柄澤斎、製本：藤生典子 限定55部、刊行者本5部 東京創元社
-----	-------------	--	------	-----------	---	--

〈石川順恵氏寄贈〉

油彩・アクリル画など

石川順恵	春分2007-3	アクリル絵具、砂、カンヴァス	2007	280.5×197.5	—	
------	----------	----------------	------	-------------	---	--

〈平野杏子氏寄贈〉

油彩・アクリル画など

平野杏子	蘇生するオフエリア	油彩、カンヴァス	1969	130.3×97.0		左辺下：昭和四十四年杏子
------	-----------	----------	------	------------	--	--------------

〈中島幹夫氏寄贈〉

彫刻・インスタレーション

中島幹夫	トルソ	石(安山岩)	1960	72.5×40.0×52.5	右側面下部：中幹	専用台座あり 20.5×30.5×30.5(安山岩)
------	-----	--------	------	----------------	----------	----------------------------

作家名	作品名	技法・材質	制作年	寸法 (cm)	署名年記	備考
〈井関正昭氏寄贈〉						
彫刻・インスタレーション						
イサム・ノグチ	広島原爆慰霊碑のためのマケット	石膏、着色	1952	53.0×58.0×29.0		
〈多和圭三氏寄贈〉						
彫刻・インスタレーション						
多和圭三	無題	鉄	1991	14.5×37.0×25.0	—	
〈栗田政裕氏寄贈〉						
書籍・冊子						
栗田政裕	『イマジオ&ポエティカ』第29号	木口木版	2008	12.7/21.8; 17.8/21.8× 9.8/18.1; 12.7/18.1	—	木口木版2点(《花の祭り》、《眩華》)
〈齋藤量子氏寄贈〉						
素描・水彩画など						
藤田嗣治	絵手紙 「もう一度行きたいのは…」	水彩、インク、紙	1942	21.9×14.5		
〈片岡球子氏寄贈〉						
日本画						
片岡球子	剃髪	紙本着彩	1950	192.7×226.7	左下: [落款]	
〈奥田西杜子氏寄贈〉						
版画						
高橋力雄	東京タワー	木版、紙	1990	49.7/63.0×37.0/45.0	左下: '90 非売 中下: Tokyo Tower 右下: Rikio Takahashi	

館外貸出作品一覧

開催初日が2007年度内のものに限る。

件数	点数	作家名《作品名》	「展覧会名」 会場(会期)
1	1	前田寛治《裸婦》	「パリへ——洋画家たち百年の夢 黒田清輝、藤島武二、藤田嗣治から現代まで」 東京藝術大学大学美術館(2007年4月19日-6月10日)、新潟県立近代美術館(6月23日-8月5日)、MOA美術館(8月17日-9月30日)
2	2	片岡球子《面構 国貞改め三代豊国》	「日本画『今』院展」 パリ三越エトワール(2007年4月25日-6月23日)、日本橋三越(12月27日-2008年1月20日)
3	3	寄託作品(油彩)	「近代日本美術を俯瞰(ふかん)する 開館記念特別展」 横須賀美術館(2007年4月28日-2007年7月8日)
4	4	小倉遊亀《牡丹》	「小倉遊亀展 描くことは、生きること」 茨城県天心記念五浦美術館(2007年4月28日-6月3日)
5	6	金煥基《無題》	「アジアのキュビズム パリ展」 パリ日本文化会館(2007年5月16日-7月7日)
6	7	宮崎進《花咲く大地》	「みいだされた永遠 宮崎進展」 岩波書店一橋ビル(2007年5月28日-6月8日)
7	8	佐藤哲三《帰路》	「見果てぬ夢——日本近代画家の絶筆」 兵庫県立美術館(2007年5月29日-7月8日)、
	9	古賀春江《サーカスの景》	松本市美術館(7月13日-8月19日)、富山県水墨美術館(8月24日-9月30日)
8	10	児島善三郎《立てるソニア》	「田園の輝き 児島善三郎展」 府中市美術館(2007年6月2日-7月16日)、北九州市立美術館(7月22日-8月26日)
9	11	堀文子《初秋》	「堀文子展」 高島屋日本橋店(2007年6月6日-25日)、高島屋横浜店(10月11日-22日)
	12	堀文子《蓮》	
10	13	岸田劉生《初夏の麦畑と石垣》	「画家・岸田劉生の軌跡」 北海道立函館美術館(6月9日-7月29日)、釧路市立美術館
	14	岸田劉生《近藤医学博士像》	(8月4日-9月9日)、刈谷市美術館(9月15日-10月28日)
	15	岸田劉生《童女図(麗子立像)》	
11	16	朝井閑右衛門《ロリルの踊り》	「解き放たれたイメージ サーカス展」 損保ジャパン東郷青児美術館(2007年7月14日-9月2日)、MOA美術館(10月6日-12月5日)
	17	三岸好太郎《横向きの道化》	
12	18	保田春彦《白い風景(1)》	「第23回平櫛田中賞受賞記念 保田春彦展」 高島屋日本橋店(2007年7月25日-31日)、
	19	保田春彦《白い風景(2)》	井原市立田中美術館(10月5日-11月25日)
	20	保田春彦《白い風景(3)》	
13	21	片岡球子《面構 上杉謙信と直江山城守》	「描かれた武士たち——武者絵の世界展」 長野県信濃美術館(2008年7月28日-8月26日)
14	22	藪野健《金色旗なびく我シド》	「藪野健——記憶の都市」 府中市美術館(2007年7月28日-10月8日)
	23	藪野健《昨日の街角》	
	24	藪野健《僕のいた丘》	
15	25	金山平三《しけの翌日》	「水のかたち展」 茨城県近代美術館(2007年7月28日-9月24日)
16	26	若林奮《残り元素I》	「日本彫刻の近代」 宮城県美術館(2007年8月7日-9月17日)、三重県立美術館(2007年
	27	若林奮《残り元素II》	9月26日-11月4日)、東京国立近代美術館(2007年11月13日-12月24日)
	28	若林奮《残り元素III》	
	29	江口週《楕形の碑-No.8》	
	30	堀内正和《表裏相入円錐》	
17	31	原勝郎《街(フランス)》	「異邦人たちの夢 エコール・ド・パリとパリを描いた日本人」 松坂屋美術館名古屋店
	32	原勝郎《村の樹(フランス)》	(2007年8月11日-9月10日)、福井市美術館(10月2日-11月4日)
18	33	梅原龍三郎《椿》	「福原信三と美術と資生堂」 世田谷美術館(2007年9月1日-11月4日)
	34	梅原龍三郎《熱海野島別荘》	
	35	小林徳三郎《鯨》	
	36	中川一政《静物(びん・白布)》	
19	37	熊谷守一《きんけい鳥》	「没後30年 熊谷守一展——天与の色彩 究極のかたち——」 萬鉄五郎記念美術館(2007年9月15日-10月21日)、高梁市成羽町美術館(10月27日-12月2日)、天童市美術館(12月14日-2008年1月27日)、埼玉県立近代美術館(2月2日-3月23日)
20	38	小山敬三《修道院付近》	「生誕110年記念 気韻生動の画家 小山敬三展」 茅ヶ崎市美術館(2007年9月22日-11月11日)
	39	小山敬三《アルカンタラの橋》	
	40	小山敬三《雲中富嶽》	
	41	小山敬三《山村京都付近》	
21	42	江口週《獣頭の碑》	「柳原義達・土谷武・江口週 彫刻三人展」 練馬区立美術館(2007年9月22日-10月21日)
	43	江口週《カリュアイの柱》	

件数	点数	作家名《作品名》	「展覧会名」 会場(会期)
21	44	柳原義達《鳩》	
	45	柳原義達《坐る裸婦A》	
	46	柳原義達《坐る裸婦B》	
22	47	片岡球子《カンナ》	「秋野不矩・小倉遊亀・片岡球子三人展」 浜松市秋野不矩美術館(2007年10月6日-11月18日)
	48	片岡球子《面構 足利義満》	
	49	片岡球子《面構 足利義政》	
	50	片岡球子《面構 足利尊氏》	
	51	片岡球子《面構 鳥文斎栄之》	
	52	片岡球子《面構 歌川国芳》	
	53	片岡球子《面構 安藤広重》	
	54	片岡球子《剃髪》	
23	55	アルブレヒト・デューラー「ヨハネ黙示録」《太陽の女と七つの頭をもつ龍》	「天体と宇宙の美学」 滋賀県立近代美術館(2007年10月6日-11月18日)
	56	柄澤齊《クロノスの盃》	
24	57	日下賢二《作品I》	「木版画東西対決——仏教版画から現代まで——」 町田市立国際版画美術館(2007年10月6日-11月25日)
	58	古川龍生《庭上》	
25	59	森堯茂《巢8》	「造形思考の軌跡——森堯茂彫刻の70年」 町立久万美術館(2007年10月6日-11月25日)
	60	森堯茂《作品》	
	61	森堯茂《飛翔する形態》	
	62	森堯茂《作品S》	
26	63	鏑木清方《一葉園(下絵)》	「山口蓬春と鏑木清方——近代日本画にみる風趣——」 山口蓬春記念館(2007年10月20日-12月24日)
27	64	萬鉄五郎《田園風景》	「田園讃歌 近代絵画に見る自然と人間展」 埼玉県立近代美術館(2007年10月27日-12月16日)、北九州市立美術館(2008年1月2日-2月17日)、財団法人ひろしま美術館(2月23日-4月6日)、山梨県立美術館(4月19日-6月1日)
	65	鳥海青児《段々島》	
	66	中谷泰《実らぬ稲》	
	67	岸田劉生《初夏の麦畑と石垣》(後半2会場のみ出品)	
28	68	奥谷博《ペランダのモンスター》	「——静謐なる極彩色——奥谷博展」 高知県立美術館(2007年10月27日-12月2日)、そごう美術館(2008年1月31日-2月25日)、茨城県近代美術館(6月7日-7月21日)、松本市美術館(8月23日-9月23日)
	69	奥谷博《鏡の中の自画像と骨》	
	70	奥谷博《足摺遠雷》	
29	71	土方久功《何かきこえる》	「パラオ ふたつの人生 鬼才・中島敦と日本のゴーギャン・土方久功展」 世田谷美術館(2007年11月17日-2008年1月27日)
	72	土方久功《月》	
	73	土方久功《妖霊》	
	74	土方久功《南島閑語》	
30	75	馬越陽子《天の窓——地のもととい》	「日中国交正常化35周年記念 馬越陽子油絵展」 国立中国美術館北京(2007年11月13日-22日)
	76	馬越陽子《生》	
31	77	清宮質文《或る時》	「生誕90年 木版画の詩人 清宮質文展」 横須賀美術館(2007年11月23日-12月16日)
	78	清宮質文《初秋の風》	
32	79	斎藤寿一《不詳》	「青・風・宙の版画 斎藤寿一展」 川崎市市民ミュージアム(2007年12月23日-2008年1月27日)
	80	斎藤寿一《魚》	
	81	斎藤寿一《無題(三つの枯葉)》	
	82	斎藤寿一《くらげ》	
	83	斎藤寿一《海》	
	84	斎藤寿一《群魚》	
	85	斎藤寿一《森と月》	
	86	斎藤寿一《風景(F)》	
	87	斎藤寿一《不詳》	
	88	斎藤寿一《樹葉(A)》	
	89	斎藤寿一《青い点》	
	90	斎藤寿一《青の中の風》	
	91	斎藤寿一《雲と核(A)》	
	92	斎藤寿一《白い風(B) 風の中の風景》	
	93	斎藤寿一《白い風(A)》	
	94	斎藤寿一《黄色い風(C)》	

件数	点数	作家名《作品名》	「展覧会名」 会場(会期)
32	95	斎藤寿一《風の中のトルソー (エチュード)》	
	96	斎藤寿一《青い雲》	
	97	斎藤寿一《宙' 79-B》	
	98	斎藤寿一《宙' 80-C》	
	99	斎藤寿一《宙' 82》	
	100	斎藤寿一《宙' 84 反核への証し》	
	101	斎藤寿一《宙' 84 反核への証し》	
	102	斎藤寿一《宙' 84 反核への証し》	
	103	斎藤寿一《宙' 86-E 反核への証し》	
33	104	山口蓬春《萬歴五彩花卉龍文方尊》	「山口蓬春と古陶磁——日本画家が愛した静謐な美の世界——」 山口蓬春記念館 (2008年1月9日-3月23日)
	105	山口蓬春《三彩俑(二)》	
34	106	橋本雅邦《深山秋色》	「没後100年 橋本雅邦展」 川越市立美術館(2008年1月12日-3月9日)
35	107	寄託作品《油彩》	「河野通勢展」 平塚市美術館(2008年2月2日-3月23日)、足利市立美術館(4月5日-5月25日)、渋谷区立松濤美術館(6月3日-7月21日)、長野県信濃美術館(11月22日-2009年1月18日)
	108	寄託作品《油彩》	
36	109	寄託作品《油彩》	「信州の作家たち(2) 生誕100年 島崎鶏二特別展示」 長野県信濃美術館(2008年2月2日-3月4日)
37	110	佐伯祐三《滞船》	「没後80年 佐伯祐三展」 笠間日動美術財団(2008年3月6日-5月6日)、そごう美術館(2008年5月10日-6月22日)、三重県立美術館(6月29日-8月17日)
38	111	山口蓬春《春(下図)》	「山口蓬春・名画誕生の軌跡——本画と下図から探るその絵画の魅力」 山口蓬春記念館(2008年3月29日-5月25日)
	112	山口蓬春《夏(下図)》	
	113	山口蓬春《秋(下図)》	
	114	山口蓬春《冬(下図)》	
	115	山口蓬春《梨(春下図)》	
	116	山口蓬春《はまゆう(夏下図)》	
	117	山口蓬春《とちの木(秋下図)》	
	118	山口蓬春《牛(素描)》	
	119	山口蓬春《南嶋薄暮(下図)》	
	120	山口蓬春《かく紫陽花と花菖蒲》	

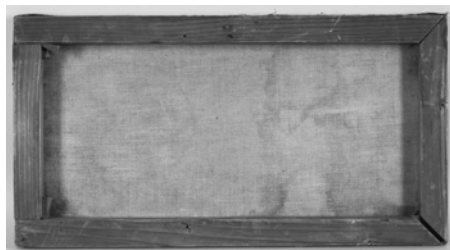
当館を含む巡回展への貸出作品一覧

件数	点数	作家名《作品名》	「展覧会名」 会場(会期)
1	121	鶴岡政男《死の静物(松本竣介)》	「生誕100年 鶴岡政男展」 群馬県立館林美術館(2007年4月14日-6月17日)、鎌倉館 (6月30日-9月2日)
	122	鶴岡政男《射的》	
	123	鶴岡政男《視点B》	
2	124	アンリ・マティス《横たわる踊り子》(《踊り子十態》より)	「マティスとボナール——地中海の光の中へ——」 川村記念美術館(2008年3月15日- 5月25日)、葉山館(5月31日-7月27日)
	125	アンリ・マティス《肘をつく踊り子》(《踊り子十態》より)	
	126	アンリ・マティス《左に傾けた首》	
	127	アンリ・マティス『シャルル・ドルレアン詩集』	
	128	アンリ・マティス素描集『主題と変奏』	
	129	アンリ・マティス『ジャズ』	
	130	『ヴェルヴ』I-1, I-3, II-8, IV-13, V-17, V-18, VI-21/22, VI-23, IX-35/36	

修復報告



〈修復前〉空の部分と下辺近くに剥落が多くみられる。



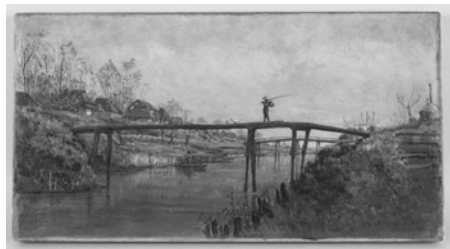
〈修復前〉裏 支持体裏面に冠水の跡が見られ、木枠は四隅に緩みがみられる。



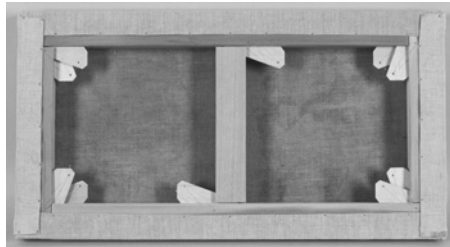
〈修復中〉周辺部に補強布を取り付けた。



〈修復中〉剥落部分に充填整形を施した。



〈修復後〉充填個所に補彩を施した。



〈修復後〉裏 楔付き新調木枠に張り込んだ。

修復報告—油彩画

神奈川県立近代美術館 伊藤由美

作者：間部時雄

題名：田園風景

油絵具、麻布

制作年：不詳

寸法(mm)：230×567

修復前の状態

画面全体に、絵具層、地塗り層の剥落が多くみられる。裏面の観察から、剥落は冠水によると思われる。剥落は下辺に沿って幅2センチほどの帯状に生じている部分と、上方から三分の一ほどの空部分に細かい剥落が広範囲に生じている部分がある。冠水の影響を受けていない箇所の絵具層は固着も良く、堅牢である。空部分は全体的に絵具層の固着が不良で、特に雲の部分の白色絵具を多く使用している部分に剥落が多いことから、剥落は冠水と同時に、技法的な影響もあることが示唆される。

木枠は手製とみられ、右上下隅は斜めに切断された木で臍組されているが、左上下隅は真直ぐに切断された木が組まれている。楔は3本のみ残留していて、四隅の臍組は緩んでいる。

修復方針

支持体は経年のため脆弱であるため、張り直しの際の張り込む力に耐えるよう、周辺部に補強布を接着する必要がある。また布にかかる負担を考慮し、楔付きの木枠で徐々に木枠を伸張しながら張りこんでゆく。下方の剥落充填箇所の補彩に関しては、広範囲の欠損で図柄がわからない部分もあるので、その箇所は、鑑賞の妨げにならない程度の彩色を施す。旧木枠は四隅の緩みがひどく矩形を保たれないため、楔付き木枠を新調する。

施工処置

1. 絵具層剥落部周辺の浮き上がりを、膠水にて接着した。
2. 木枠を除去し、裏面の埃の除去、清掃、殺菌を行った。
3. 画面周辺の張りしろ部分に麻布の補強布をBEVAを用いて接着した。
4. 画面の汚れを、希アンモニア水で除去した。
5. 新調した特注楔付き木枠に作品を張り込んだ。
6. 剥落箇所に炭酸カルシウムと水性接着剤を練った充填剤を充填し、周辺の絵具層のマチエールに合わせて整形をした。
7. 充填箇所に補彩を施した。下塗りは水彩絵具、上塗りは溶剤型アクリル絵具を使用した。
8. ダンマルワニスを薄く塗布した。
9. 額を新調し、額装した。

所見

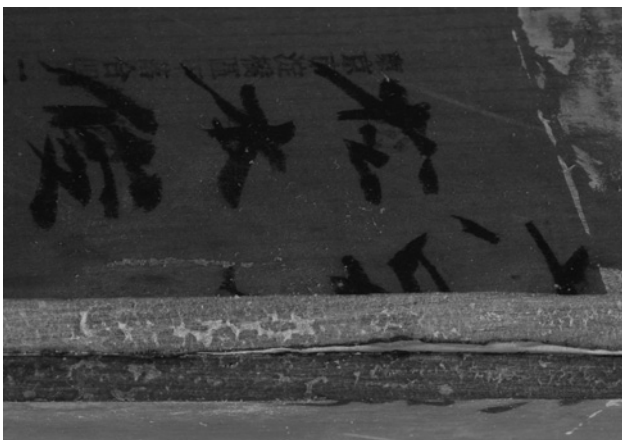
本作品は当初、作者不詳として収蔵された。画面右下にはMとTを重ねた文字に続きtoki...と書かれたサインがあるが、最後の部分は一部剥落で読み取れない。技法、作風、美術研究者の知見を参考に、作者は間部時雄と判断した。



〈修復前〉画面の中央やや左に縦方向の割れが見られる。



〈修復中〉ラウンベニヤの除去中。左側には和紙が現れた状態がみられる。



〈修復中〉板の割れた部分の拡大図。旧接着材が残っているのがわかる。



〈修復後〉支持体割れ部が目立たなくなった。



〈修復後〉裏面からは、割れ部や絵の具の付着、裏書きが認められる。

作者：松本竣介

題名：工場

油絵具、板

制作年：1942年

寸法(mm)：408×316

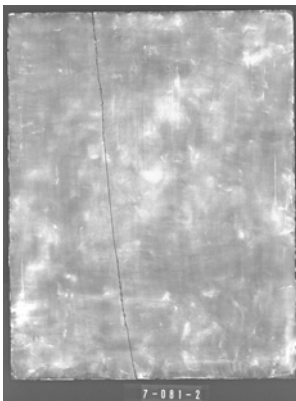
修復前の所見

厚さ7mm板を支持体として描かれた油彩画である。板は、中央やや左に縦方向の割れが生じて二つになっており、それぞれが少し反っている。割れ部の接合面に接着剤が残っていることから、割れた部分はかつて接合されていたと思われるが、現在は外れている。また、作品をつなぎ合わせておくための処置として厚さ3mmのラウンベニヤ板が裏面から接着されているが、その接着状態は良好ではない。このため割れた部分が目立ち鑑賞上の妨げになっているほか、作品を安全に移動できないという支障をきたしている。また、額装に関しては、額の入れ寸法が作品に合わず大きい為、固定がしにくく危なげで、改善が必要である。その他、裏面(ラウンベニヤの表面)には漢字で、六号 松本俊介先生と鉛筆で記されている。

画面には、少しマットな艶のワニス層があり、目立つ黄変は認められない。全体に汚れが付着している。絵具層の固着は非常に良いが、左辺と右辺にわずかな剥落と浮き上がりが生じている。板が割れた部分には絵具層の剥落が集中しており、そのほとんどに補彩が施されている。

施行処置

1. 絵具層の浮き上がり接着：絵具層の浮き上がり部は、膠水を用いて接着した。
2. 画面洗浄：全体の汚れを洗浄した。旧補彩はキシレンにて除去した。ワニスの状態は良好であるため除去しなかった。
3. 旧処置除去：裏面のラウンベニヤを彫刻刀で少しずつ削って除去した。その際、画面と支持体の板を保護するために、和紙による表打ちと、石膏で板の湾曲に合わせて型をとったベッドを用意した。ラウンベニヤを除去すると下から水性糊で貼られた和紙が現れたのでこれを加湿して除去した。この和紙は板の割れ目の部分がすでに切れていたため、ラウンベニヤを接着する以前の処置の可能性がある。次に支持体接合部の旧接着剤を加湿しながらメスで除去した。支持体裏面には、六号 松本俊介先生と墨で書かれていた。
4. 支持体接着(板の割れ部接合)：接合面に膠水を塗布し、クランプで絞めて接着した。
5. 剥落部の充填整形：絵の具層の剥落部に炭酸カルシウムと膠で練った充填剤を注入し、周囲のマチエールに合わせ整形した。
6. 防黴殺菌：画面にチアベンタゾールを主剤とした防黴剤を塗布し、裏面はアルコールで殺菌した。
7. 補彩：溶剤型アクリル絵具で充填部に補彩を行った。



〈修復前〉X線写真 板の割れ部分が開いている。作品の絵柄や筆致は明瞭には認められない



〈修復後〉X線写真 割れは接着されたが、割れ周辺部に絵具層の剥落があるのがわかる。

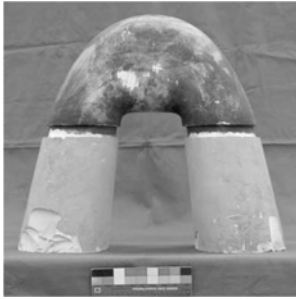
8. ワニス塗布：下層にダンマルワニス、上層にパラロイドB-72を塗布した。本作品のワニス層は比較的良好なので、艶を均等にするためのごく薄いワニスを塗布するに留めた。
9. 額補修：入れ子の改良と裏蓋の設置、そして作品の周辺部に作品保護用枠を新たに取付けた。

修復後の所見

支持体の割れた部分は、接合面のみの接着に止め、裏面からの裏打ちなどによる補強は行わなかった。板の自然な動きを妨げないようにするためである。作品に設置した作品保護用枠は、作品の周辺部をやさしく挟み込んで固定する仕組みになっており、作品を支え、且つ安全な状態に保つことを目的としている。



〈修復後〉作品に作品保護用枠を取り付けたところ。



I 〈修復前〉



II 〈修復後〉

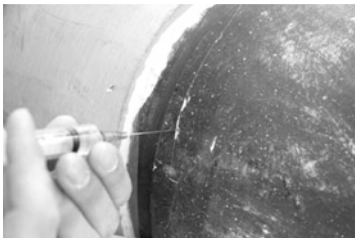


〈修復中〉

1. メチルセルロースでの剥落止め



2. エアブラストによる清掃



3. アクリル系接着剤での接着



4. polyfillerでの欠損部充填



5. 水彩による補彩

作者：イサム・ノグチ

題名：広島原爆慰霊碑のためのマケット

石膏、着色

制作年：1952年（昭和27）頃

寸法（mm）：585×286×h. 524

状態

- ①中央の段差より下部に、汚れや擦れによる変色がみられた。
- ②基底部及び中央の段差がある所にも数カ所欠損がみられた。
- ③灰色部分、黒色部分ともに掻き傷または当りによる欠損、着色の剥落がみられた。
- ④上部黒色部分の着色は、触れただけで取れてしまう状態であった。
- ⑤右側面中央の段差部分から、前面にかけて亀裂が走っていた。

処置方針および実施処置

現在までに残った形、色がさらに落ちてしまうことを防ぎながら、欠損の充填、剥落した着色部の補彩、亀裂の接着を行なう。また、これらの処置は作品の経年変化を全て消してしまわない程度に抑える。

1. 剥落止め

作品上部、黒色部分の剥落止めにはメチルセルロース15000の0.5%水溶液を用い、エアブラシで全面に吹き付けた。乾燥してから着色が落ちないかを確認しながら行い、計3回の吹き付けを行った。

2. 清掃

作品中部の凹みや、石膏の細かい凹凸にある汚れは、刷毛と圧縮空気を使用して除去した。

3. 亀裂の接着

作品中部の凹み付近の亀裂は、作品を寝かせたとき、または作品を動かすときに若干開閉していたため、接着の注入を行った。まずparaloidB72の15%アセトン溶液を亀裂に染み込ませて目止めを行い、乾燥後に、弾力を持たせるために、paraloidB72とacrykleber498を1:1で混ぜたものの20%アセトン溶液を亀裂に入れた。接着剤により着色が濡れ色になることを防ぐため、欠損などにより石膏の地が出ている箇所から注入した。

4. 欠損部の充填

大きく欠損した箇所、及び欠損により鑑賞上目につく箇所には充填を行った。paraloidB72の15%アセトン溶液で欠損部を目止めした後、基底部には石膏を、上部の細かい欠損にはpolyfiller（炭酸カルシウム+PVAc）を充填し、硬化後に整形した。

5. 補彩

充填した部分には水彩絵具とパステルを使用して、石膏の地が出てきている部分や掻き傷、落ちない汚れがある部分にはパステルを用いて補彩を施した。

2007年度修復作品リスト

※表記のない場合は当館修復担当による

作家名	作品名	寸法(mm)	制作年	種別	外部委託※
上野泰郎	またとなきいま	2726×2122	1989	日本画	瑤春堂
福王寺法林	朝	1680×2170	1955	日本画	瑤春堂
フランシスコ・ゴヤ	気まぐれ(80点)	189×181～325×229	1796-98	版画	米倉乙世
フランシスコ・ゴヤ	戦争の惨禍(80点)	247×331～251×334	1810-20	版画	米倉乙世
萬鉄五郎	山水図	1405×345	1926	日本画	山中和人
イサム・ノグチ	広島原爆慰霊碑のためのマケット	585×286×h.524	1952頃	彫刻	藤原徹
朝井閑右衛門	ロリルの踊り	1625×1310	1936	油彩画	増田久美
松本竣介	工場	408×316	1942	油彩画	(有)修復研究所21
佐伯祐三	壺	193×295	不詳	素描	
佐伯祐三	パリ郊外 壁と建物	246×358	不詳	素描	
アンリ・マティス	シャルル・ドルレアン詩集(6点)	409×530	1950	版画	
三岸好太郎	横向きの道化	546×396	1929	水彩画	
鬨光	警察病院	139×181	1941	油彩画	
内田巖	少女像	1620×1123	1933	油彩画	
南薫造	模写(バーン・ジョーンズ原画) 夫の無事の帰還を願うプルターニュのドリゲン	275×378	1909	油彩画	
藪野健	金色旗なびく我シド	515×907	1973	油彩画	
金山平三	しけの翌日	655×910	1950頃	油彩画	
中谷泰	漁婦	908×505	1959	油彩画	
木下孝則	読書	910×1167	1959	油彩画	
坂宗一	農具	1125×1455	1937	油彩画	
林敬二	ETEREⅢ	1275×1703	1967	油彩画	
嶋田しづ	風神・雷神	1625×1313・1625×1313	1963	油彩画	
佐田勝	工場地帯(川崎)	1168×730	1956	油彩画	
緑川広太郎	汁を飲む男	498×580	1950	油彩画	
高間惣七	昇	2273×1825	1965	油彩画	
太田喜二郎	並倉の図	555×633	1932	油彩画	
久保守	欧州風景	463×554	1930-31	油彩画	
有島生馬	舞台衣装	653×530	1909	油彩画	
阿部展也	生誕	1158×803	1949	油彩画	
高島達四郎	静物	732×1005	1956頃	油彩画	
間部時雄	田園風景	300×568	不詳	油彩画	
佐藤哲三	ひるめし時	535×655	1932	油彩画	
佐藤哲三	アネモネ	306×143	1951	油彩画	
佐藤哲三	響子像	273×220	不詳	油彩画	
佐藤哲三	原野	239×329	1950	油彩画	
佐藤哲三	女の顔	223×152	1953	油彩画	

調査研究活動

研究報告

吉村弘と「sometimes press」

水沢 勉

はじめに

当館に平成19年度に吉村洋子氏よりまとめて寄贈された、吉村弘(1940-2003)の作品資料のなかには、現在まで注目されてこなかった一群の印刷物がある。吉村自身が、「sometimes press」と命名した、自宅を出版社とする作品群である。

2005年の当館葉山館での吉村弘展「音のかたち、かたちの音 吉村弘の世界」(2005年7月9日-8月28日。同年10月24日-11月6日、神戸のジーベックホールに巡回。さらに規模を縮小し、同年12月12日-16日、早稲田大学小野講堂1階ギャラリーでも展示された)にすでにその一部は展示されているが、ここでは、現在確認されている刊行物のリストを整理し、その内容を紹介しておきたいⁱ⁾。

名称について

「sometimes press」という名称についてはとくに公式の発言は記録されていない。1963年にディック・ヒギンズがニューヨークで設立したコンクリート・ポエトリーの出版社の名称「Something Else Press」のことも念頭にあったであろう。吉村弘が学生時代から書きつづけてきた未公開の日記には、1976年2月2日の項に、つぎのような記述が確認できる。

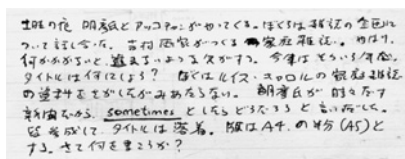
「土曜の夜 明彦氏とアッコちゃんがやってくる。ぼくらは雑誌の企画について話し合った。吉村両家がつくる家庭雑誌。やはり、何かかかないと進まないような気がする。今年はそういう年だ。タイトルは何にしよう? ぼくはルイス・キャロルの家庭雑誌の資料をさがしたがみあたらない。明彦氏が時々だす新聞だからsometimesとしたらどうだろうと言いだした。皆賛成してタイトルは落着。版はA4の半分(A5)とする。さて何を書こうか?」

「土曜」は、2月2日が日曜日であるから、前日の2月1日であろう。早稲田大学の文学仲間のひとりであり、深く交流した吉村明彦氏が夫人のあき子さんを連れて、吉村弘・洋子夫妻の暮らしていた渋谷区広尾5丁目の都営アパートの一室を訪ねてくる。「家庭雑誌」を作ろうというのだ。「今年はそういう年だ。」という意気込みは、吉村両家に共有されていたにちがいない、明彦氏の提案で、「sometimes」という雑誌名が提案され、決定する。ふたりの吉村はすでに『朝食』ⁱⁱ⁾という同人雑誌で共同した体験があった。「時々だす」ということのリアリティも共有していたのであろう。しかも、吉村弘は、さっそくその日記のページの最後にロゴマークもスケッチしている。平行線を重ねて遠近感を強調し、地平線の部分にはふたつの樹木が一部重なるように描かれている。それぞれに吉村両家のイニシャル「y」があしらわれている。いかにも吉村弘らしい優しくチャーミングなデザインである。

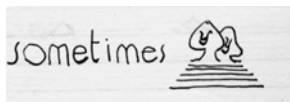
しかし、この「家庭雑誌」は幻に終わったようだ。創刊は確認されていない。しかし、おそらく、この命名と基本的に「時々出す」という発想は、吉村弘に強い印象を残したのであろう。その年のうちに、「sometimes press」の活動が本格化したことが確かめられる。

刊行目録

現在、存在が確認されている最初の「sometimes press」の刊行物は、1976年10月20日の刊行が確認できる『concert on paper: scenic event』である。そこにはもちろんこのロゴマークは使用されていない。以下にsometimes press刊行物の目録を出版順に掲げ、形式内容を簡単に記しておきたい。



吉村弘 日記 1976年2月2日



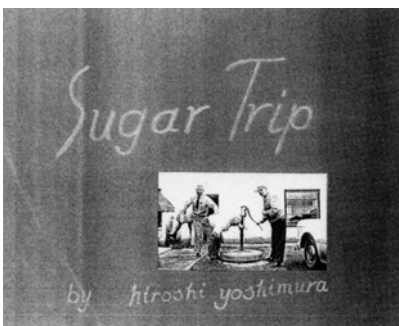
同上 文末に描かれたロゴマーク



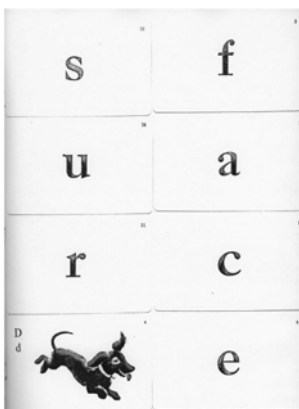
『concert on paper: scenic event』第1シート



『concert on paper: scenic event』奥づけのゴム印



『Sugar Trip』第1シート



『surface』扉ページ

1

『concert on paper: scenic event』

1976年10月20日

25.7×36.4cm

15シート〔奥づけを含む。版下の状態〕

エディション：不詳、冊子に製本されたものは未確認

個人蔵

内容：「concert on paper」という発想の作品は、すでに1974年から開始され、「from here to there」ないし「paper landscape」と呼ばれた、一枚の紙を「舞台」に見立てて、そこに「イベント」を仕掛ける、文字通りの「works on paper」が拡大発展したものである。吉村は、それをイベント、パフォーマンスのアイデアのメモとして、あるいは、そのドキュメントとして、縦横に利用して、遊戯的な開放感にあふれた作品としている。ほんらい、一枚で完結する性格も備えており、事実、そのような状態で残されているものも多いが、それをさらにゼロックスコピーして、冊子状に製本したとき、「sometimes press」という自宅に置かれた「出版社」が出現することになる。本作は、製本を確認できないが、奥づけに「sometimes」のゴム印が捺され、発行年月日、「sometimes press」という名称と住所と電話が英文タイプで明記されている。他にも二種ほどの一群の「concert on paper」の版下原稿が存在するが、奥づけは付されていない。本作を「sometimes press」の最初の出版物と推定することができよう。内容は、まさしく吉村両家の箱根旅行の記録写真が用いられ、「家庭雑誌」という当初の発想の残響が確認できる。最後のシートにも二本の樹木の写真が配されている。また、当時来日中であった、アメリカの小説家リチャード・ブローティガンも同行した「万惣西瓜糖之墓」訪問の記録も微笑ましい。

2

『Sugar Trip』

1977年4月29日

25.7×36.4cm

21シート〔版下の状態〕

エディション：不詳、冊子に製本されたものは未確認

個人蔵

1976年12月25日から1977年1月30日に吉村は、アメリカの西海岸を洋子夫人とともに訪れている。そのときに滞在先で入手した粉砂糖の紙製の小袋を、それに関連する写真や、印刷物、オブジェと組み合わせて、「concert on paper」の別バージョンとして展開したもの。大衆イメージが随所に躍動して、全体としてよりポップな感覚が溢れた旅行記録ともなっている。タイトルは、最初に訪れたサンフランシスコでの入国検査で「新婚旅行か？」と訊かれて以来、同じ質問を何度も受けた体験もきっかけになっている。

3

『surface』

1977年

25.8×18.3 cm

14シートを二つ折りにして、前後に見返しページを付し、製本

エディション：2部確認

個人蔵／富士ゼロックス

1970年まで東京に滞在していたアメリカの詩人マリス・カンディンスと前述の旅行の際に再会を果たし、彼のアイデアによって制作された作品。身のまわりにある、複写機で転写可能なオブジェをコピーし、レイアウトしていく。印刷物もあれば、ドライバーのような立体物も含まれ、

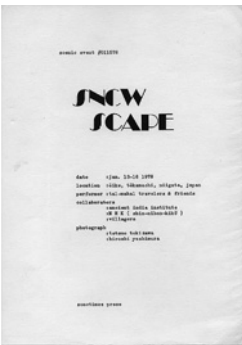
「concert on paper」の発想を残しつつも、全体が、視覚による具体詩のような魅力を放っている。



『PERFORMANCE2②(エリック・サティの音具の為に…)』
第3シート 即興演奏する吉村弘



『Continuous PERFORMANCE #001』表紙



『SNOW SCAPE』表紙

4

『PERFORMANCE2②(エリック・サティの音具の為に…)』

1977年6月12日

25.7×36.4cm

13シート〔版下の状態〕

エディション：不詳、冊子に製本されたものは未確認

個人蔵

東京高輪の鈴木昭男のスタジオでおこなわれた、鈴木昭男、吉村弘、島田リリ、浜田剛爾による集団パフォーマンスの写真記録。文字情報は第1、第2シートのみ。第2シートには吉村のデザインによって転写レタリングシートで「PERFORMANCE」の文字がレイアウトされている。

5

『Continuous PERFORMANCE #001』

1977年12月

41.1×27.8cm

12ページ 印刷物

編集：浜田剛爾、鈴木昭男、吉村弘

エディション：1000部 売価100円

個人蔵／当館蔵

1977年前半に行われた吉村弘と仲間たちのパフォーマンスを記録したもの。写真や、印刷物によって構成されている。吉村弘は、「scenic event: sugar trip」を2ページにわたって寄稿し、全体のデザインを担当した。ドキュメントそのものを作品化する意識にもとづいて、パフォーマンスを核に結晶化させる作品であり、販売目的もあったことが確認できる貴重な作例である。

6

『SNOW SCAPE』

1978年1月

25.8×18.2cm

タイトルとデータの記された二つ折りのカバーとそれに挟まれたキャビネ判の紙焼き写真3枚

エディション：不詳

個人蔵

1978年1月13日から16日まで新潟県十日町大池で開かれたタージマル旅行団の演奏の記録。「scenic even #011578」。キャビネ判に焼いた写真が3枚挟まれているだけであり、編集途中の未完成である可能性が高い。



『AQUA VISTA』扉

7

『AQUA VISTA』

1978年

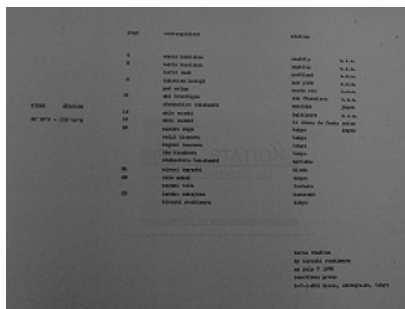
25.8×36.4cm

25シート(1枚は扉)、製本

エディション:1/1

当館蔵

技法ははっきりしないが、おそらく水に油性絵具を混ぜて転写したイメージを原画(一部個人蔵)としてコピーし、製本したもの。原画そのものは、洋子夫人の記憶によれば、1965年に遡る可能性が高い。タイトルはラテン語で「水の光景」を意味する。吉村作品としては、例外的に、美術的発想の明確な作品である。



『HIROO STATION 35° 39'N-139° 42'E』目次

8

『HIROO STATION 35° 39'N-139° 42'E』

1978年7月7日

25.9×36.6cm

24シート、製本

エディション:不詳

当館蔵

広尾の自宅を「局 STATION」に見たてて、世界各地からの友人たちからの手紙を、コピーし、記録化するメールアート的な作品。緯度経度がタイトルに表記されているように、世界各地の友人たちが集まってくる場所としての「広尾」をつよく印象づける作品。他に82シートを数えるより大部な同形式の『HIROO STATION』(冊子)が存在する(個人蔵)。カンデンス、パット・ノラン、浜田剛爾、小杉武久らの手紙を記録する、より特集的な発想の作品である。ただし、「sometimes press」の表記が確認できないための今回のリストからは除いた。

以上、「sometimes press」の刊行物としては、現在、8件を確認することができた(ロゴ入りの封筒も確認されている。当館蔵)。そこには機械的なコピーをおもに使いながら、当初「家庭雑誌」を標榜しようとしたように、身近なひとびととの創造的な交流を、なるべくその体温を残しながら、掬いあげるという独自の出版姿勢をうかがうことができる。それはおそらく吉村弘の創造の本質にかかわる部分であった。今後さらに内容に検討し、1970年代後半の吉村弘そしてその周辺の芸術的な状況を明らかにする必要がある。

i 「ゼログラフィーと70年代」〔展覧会カタログ〕富士ゼロックス、2005年。『surface』『AQUA VISTA』『HIROO STATION 35° 39'N-139° 42'E』(ただし、リストには『HIROO STATION』と表記)の3点が出品された。

ii 1965年創刊、創刊月日不詳。吉村弘は1965年7月7日刊行の第4号から詩人として参加。1967年刊行予定の第18号は、詩人としての「吉村弘特集」であったが未刊に終わった。

美浦康重版画コレクションについて

長門佐季

美術愛好家の美浦康重氏から寄贈された版画および版画集、約200件（総計約500点）からなるコレクションである。これらの作品は、美浦氏が40年にわたって集めてきた（絵画）作品のなかから、版画および版画集を中心に選ばれ、2007年度、当館に寄贈された。このコレクションの約9割を占めているのが柄澤齊の木口木版画で、美浦氏が柄澤の緻密で文学性に溢れた表現に魅かれ、最初期の1971年の《頭》から2001年の版画集『傾草紙』まで、作品の大小を問わずほぼ網羅的に集めたことが見てとれる。

そして、このコレクションのもう一つの特徴は、詩文集などの文学と版画を組み合わせた作品が多く含まれていることである。そこには、美浦氏自身が述べている詩文集ならではの「手にとってじっくり楽しむ」という文学的な香り高い版画への愛着が色濃くみられる。また、このコレクションには、柄澤とゆかりの深い日和崎尊夫のほか長谷川潔、浜田知明の銅版画など日本を代表する版画家たちの作品も含まれ、充実した版画コレクションとなっている。

（コレクションの作品リストは、新収蔵作品一覧の寄贈欄を参照）

『神奈川県立近代美術館 所蔵作品総目録1991-2005』（2007発行）の編集後記に代えて

榎山昌夫

収蔵作品の分類について、森仁史は「近代日本美術史の発掘と再検討において戦後の美術館界をリードしていった神奈川県立近代美術館も実は戦前の〈美術〉を色濃く継承している」として、『神奈川県立近代美術館30年の歩み 所蔵作品総目録1951-1981』（1982年発行、以下『総目録1951-1981』と記す）を分析し、その分類構成が1907年に開催された文部省展覧会以来の官展で採用された日本画、洋画、彫刻、工芸という序列を持つ4部門に、「技法的にはみでる水彩・素描と版画を付け加えたもの」であると述べている。一方で、個性的な特徴として、絵画の筆頭に洋画を挙げ、書の分野が無いことを指摘している（森仁史「日本における美術館所蔵品の分類体系」『アート・ドキュメンテーション研究』No.7, 1999, 9: 12-17）。森によれば、戦後の日本近代美術史研究は「絵画を中心とするアヴァンギャルドに依って切り開かれた歴史として捉えようとし」、「それを担った美術団体では油彩絵画が中心で」あり、1948年の日展に書の部門が開設されるまで、官展の〈美術〉からは書が排除されていたのであり、『総目録1951-1981』にはそれが直に反映されていると言える。ちなみに、版画は日本、中国、外国に分類されているが、それは1980年度に内山嘉吉氏から486点（組作品を1点と数える）もの中国木版画が寄贈されたからであろう。続く『神奈川県立近代美術館 所蔵作品総目録1982-1991』（1991年10月発行）は、『総目録1951-1981』の分類構成をそのまま継承し、部門ごとの通し番号も引き継いでいる。その後、しばらく所蔵作品目録が刊行されることはなく、新収蔵品のデータは年報で公表されるのみであった。

すでに「神奈川県立近代美術館美術情報システムの構築—事例報告—」（『アート・ドキュメンテーション研究』No.12, 2005, 3: 35-40）で報告している通り、2003年の葉山館開館に伴う情報システムの整備によって収蔵作品管理システム（以下、「システム」と記す）が構築される際、収蔵作品の登録について再考すべき点があった。システムは収蔵作品の貸出など出入庫管理を主とするものであり、そのためには組作品も、貸出等で移動できる最小単位ごとに分けて登録し直す必要があった。つまり、組作品を1点と数えるそれまでの総目録の各部門の通し番号はこのシステムにはそぐわない。また、ひとりの作家の作品が複数の部門に登録されていることも多く、収蔵作品を作家ごとに関連付ける新しい収蔵作品番号を全作品に付与した。さらに、従来の油彩画、日本画、彫刻、水彩・素描、版画（日本、中国、外国）、工芸という6部門8分野を、写真やインスタレーションといった収蔵作品や近年の複雑化する技法に対応させ

るために組み直し、油彩画・アクリル画など、日本画、水彩・素描など、版画(システム内部では、当初部門ごとの検索母数を減らす目的で、更に日本、東洋、西洋の3分野に分けた)、写真・印刷物、彫刻・インスタレーション、工芸、書籍・冊子などの8部門に再編した。これによって、従来の近代(美術)の序列から、材質や技法などをより意識した収蔵作品それぞれの個性を尊重する分類が図られた。

当館の3冊目の総目録となる2007年発行の『神奈川県立近代美術館 所蔵作品総目録1991-2005』は、この新しいシステムに依拠して、1991年11月から2005年度末までに収蔵された作品4591点を収録して発行された(但し版画は地域別の分類をせずひとつにまとめている)。寸法や署名年記などの作品情報は、部門に係わりなくすべての作品について記載している。この編集の過程で悟ったのは、システム構築以前の収蔵作品については、印刷可能な画像(写真)が限られていることと、年報での作品情報の記載内容が年度によってさまざまであり、総目録作成に必要な作品情報が揃っていないことである。情報公開の必要性はもちろん、これらの課題を再認識し、また、編集過程で追加、修正された情報をシステムに還元できる点を考慮しても、所蔵品総目録を今後も刊行する意味は大きい。そして、それを可能にするには、学芸業務の安定した継続性が絶対条件である。

最後に、『神奈川県立近代美術館 所蔵作品総目録1991-2005』を刊行するまでには、必要な情報を得るためにもほぼすべての掲載対象作品を確認する必要があったために、実に膨大な人的資源を必要とした。これに対して、展覧会の企画、開催やそれに伴う教育普及活動という通常の業務に加えての総目録刊行の意義を理解し快く協働してくれた常勤、非常勤の職員、そして、2005年度から受け入れを始めたインターンの方々には、改めて感謝の意を表したい。



神奈川県立近代美術館 所蔵作品総目録1991-2005 表紙

調査研究・執筆等の発表

当館開催展覧会に伴う調査研究・発表

展覧会図録への発表:15展54件(詳細は展覧会活動ページの各展図録内容を参照)

外部の刊行物への発表:4媒体8件

所蔵作品や館内の活動に対する調査研究・発表

当館の刊行物への発表:2媒体(年報、たいせつな風景)6件(詳細は教育普及活動ページの刊行物内容を参照)

外部の刊行物への発表:1媒体1件

専門分野での調査研究・発表

外部の刊行物・講演・シンポジウムでの発表:26件

外部資金を活用した調査研究

科学研究費補助金(文部科学省)「文化表象としてのアート・インスティテューション」(三本松倫代)

科学研究費補助金(文部科学省)「美術館活動を素材とした汎用的教材の開発」(稲庭彩和子)

ポーラ美術振興財団補助金(ポーラ美術振興財団)「美術館収蔵作品の劣化要因である室内、室外汚染物質の伝播、コンタミネーションの実地調査と収蔵管理上の対策」(伊藤由美)

講師・外部委員等派遣

講演会講師等派遣(学校連携プログラム以外の講師派遣)

実施日	内容	対象	会場	参加者数	主催	実施
平成19年 6月9日	美術講演会「《麗子像》をめぐって」	一般	北海道立函館 美術館講堂		北海道立函館 美術館	橋秀文
平成19年 6月27日	美術スクールセミナー	中学2年	北鎌倉女子学園 視聴覚室	116名	北鎌倉女子学園 中学校	稲庭彩和子
平成20年 1月22日	東京大学文化資源学授業レクチャー 「神奈川県立近代美術館の教育普及活動」	大学院生	東京大学法文 2号館1大教室		東京大学大学院 人文社会系研究科 文化資源学研究室	稲庭彩和子
平成20年 2月21日	日本博物館協会平成19年度研究協議会 美術部門基調講演及びシンポジウム講師	一般	横須賀美術館		日本博物館協会	山梨俊夫

外部委員等就任状況

職員名	内 容	
	団体名	職名
山梨 俊夫	国立美術館	運営委員
	東京国立近代美術館	評議員
	平塚市	協議会委員
	県民部文化課	神奈川文化賞・スポーツ賞審査委員
	国立民族学博物館	運営委員
	愛知県美術館	愛知県美術館美術品収集委員会委員
水沢 勉	横浜市	横浜トリエンナーレ2008総合ディレクター
	長野市	長野市野外彫刻賞選考委員
	群馬県立館林美術館	作品収集委員会委員
	鳥取県教育委員会	鳥取県美術資料収集評価委員会委員
	福岡市教育委員会	福岡アジア美術館美術資料収集審査員
太田 泰人	京都造形芸術大学	非常勤講師
	学習院大学	非常勤講師
	東京国立近代美術館	美術作品購入等選考委員
伊藤 由美	東京藝術大学	非常勤講師
橋 秀文	県民部文化課	『神奈川版「もったいない」紙芝居コンテスト』選考委員
	県民部文化課	神奈川県美術展審査員
是枝 開	東京藝術大学	非常勤講師
	神奈川県社会福祉協議会	かながわシルバー美術展審査員
榎山 昌夫	茅ヶ崎市	美術品審査委員
	生涯学習文化財課	文化財保護ポスター審査委員
長門 佐季	神奈川県女流美術家協会	神奈川県女流美術家協会展審査員
稲庭彩和子	美術史学会	美術館博物館委員会専門委員

運営・管理報告

概 況

(1) 沿 革

昭和26年11月17日	神奈川県立近代美術館として開館
昭和41年 3月31日	収蔵庫及び常設展示室並びに附属棟を増設
昭和44年 3月31日	学芸員室を増設
昭和49年 8月 1日	神奈川県立近代美術館組織規則(昭和49年神奈川県教育委員会規則第9号)により、管理課、学芸課の2課を置く
昭和59年 7月28日	別館を開館
平成 3年10月30日	本館の改修工事完了
平成13年 7月 5日	PFI事業契約の締結
平成15年 6月 1日	神奈川県立近代美術館組織規則の改正により、管理課、企画課、普及課の3課体制となる
平成15年10月11日	葉山館を開館

(2) 所掌事務

県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を実施する。

(3) 施設の状況

ア 土 地			
県 有	(葉山館分)	面 積	15,034.8㎡
		※生涯学習文化財課管理	
	(鎌倉別館分)	面 積	4,937.0㎡
	借 用 (鎌倉館分)	面 積	4,243.1㎡
		(有償分)	1,547.2㎡
		(無償分)	2,695.8㎡
イ 建 物			
県 有		面 積	4,034.0㎡
		(鎌倉館分)	2,435.0㎡
		(鎌倉別館分)	1,599.0㎡

収入・支出の状況

収入 (千円)			支出(人件費含まず) (千円)		
科 目	金 額	内 訳	事 業 名	金 額	内 訳
行政財産使用料	263	鎌倉館喫茶建物使用料等	維持運営費	81,058	維持管理・事業運営
使用料	52,539	観覧料収入	展覧会開催費	125,597	展覧会印刷費等
立替収入	1,412	レストラン他	調査研究事業費	279	調査研究謝礼等
		電気・ガス・水道代	教育普及事業費	3,662	教育普及事業
雑入	18,859	図録等販売	美術作品整備事業費	10,000	美術作品の修復・購入
教育受講料収入	140	県立機関活用講座	特定事業費	233,934	維持管理業務(PFI業務)
計	73,213		県立機関活用講座開催事業費	220	講座の開催
			計	454,750	

PFI事業の概要

(1) 事業内容

PFI法に基づいて、PFI事業者が葉山館建設やその後の維持管理業務などを実施し、県は提供されたサービスの対価を30年間で事業者に支払う。PFI事業者が実施する主な業務は次のとおりである。

ア 葉山館建設業務：葉山館新築工事、バスベイ・歩道等整備工事など

イ 維持管理業務：葉山館 建築物修繕、建築設備保守管理(修理を含む)、清掃、警備、受付・監視など
鎌倉館及び鎌倉別館 建築設備保守点検(修理を含まない)、清掃、警備、受付・監視など
鎌倉館の業務は借地期限の平成27年度までとする。

ウ 美術館支援業務：美術情報システムの整備及び運用支援、独立採算による付帯施設(レストラン、ミュージアムショップ、駐車場)運営

エ 備品等整備業務：葉山館備品整備、美術作品等移転など

(2) 事業者

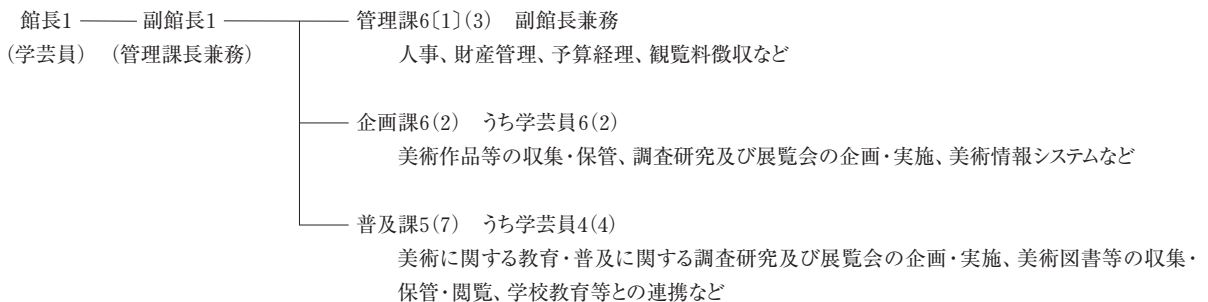
株式会社 モマ神奈川パートナーズ 所在地：横浜市神奈川区鶴屋町2-23-2

(落札企業グループが設立した事業会社)

組 織

葉山館の整備による組織の改編を行うため、神奈川県立近代美術館組織規則を改正(平成15年6月1日施行)し、従来の管理課・学芸課の2課体制から、管理課・企画課・普及課の3課体制となった。平成19年4月1日現在の職員配置状況は次のとおり。

顧問(非常勤1)



※()内は非常勤で外数 []内は臨任で外数

職員数合計 33人 〈常勤19人(うち学芸員11人)、非常勤14人(うち学芸員7人)〉

施設別配置状況 葉山館 23人 〈常勤14人(うち学芸員8人)、非常勤9人(うち学芸員4人)〉

鎌倉館 7人 〈常勤 4人(うち学芸員3人)、非常勤3人(うち学芸員2人)〉

鎌倉別館 3人 〈常勤 1人、非常勤2人(うち学芸員1人)〉

職員一覧

顧問	酒井忠康			学芸員	榎山昌夫
館長	山梨俊夫			学芸員	三本松倫代
副館長	戸来丈一			非常勤学芸員	朝木由香
				非常勤学芸員	吉良智子
				非常勤学芸員	安部沙耶香(5月1日から)
管理課	課長(兼)	戸来丈一			
	課長補佐	松本清史			
	副主幹	會津 勉(6月1日から)	普及課	課長	太田泰人
	副主幹	高麗克美		主任学芸員	是枝 開
	主査	中嶋哲志		学芸員	長門佐季
	主任主事	佐伯有紀		学芸員	奥野美香
	主任主事	大嶋裕希(5月末まで)		非常勤学芸員	稲庭彩和子
	主任主事	野木加奈子(5月末まで)		非常勤学芸員	忌部みずほ
	臨時的任用職員	榎原章子(4月末まで)		非常勤学芸員	笠井美奈子(8月末まで)
	専門員	林 弘一		非常勤学芸員	平井鉄寛
	非常勤事務補助員	山野井葉子		非常勤学芸員	山内舞子(9月1日から)
	非常勤事務補助員	加藤直美			
	非常勤事務補助員	北口正子(6月1日から)		[美術図書室]	
				副主幹	遠藤裕邦
企画課	課長	水沢 勉		非常勤司書	村上尚子
	専門研究員	伊藤由美		非常勤司書	溝口 綾
	専門学芸員	橋 秀文		非常勤司書	藤代知子
	主任学芸員	李 美那			

年報 2007年度

発行日:2009年3月31日

編集・発行:神奈川県立近代美術館

葉山 〒240-0111 三浦郡葉山町一色2208-1 電話046-875-2800

鎌倉 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-1-53 電話0467-22-5000

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

製作:求龍堂

ANNUAL REPORT 2007

Edited & Published by The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2009

Produced by Kyuryudo

©The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2009